

2020 年度文部科学省委託事業

「専修学校グローバル化対応推進支援事業」

各地域における外国人留学生の戦略的受入れに向けた体制整備

大阪型専修学校グローバル化対応推進事業 2020

成果報告書



一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会

2021 年 2 月

一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会(以下、大専各)では、2007年の留学生委員会発足から、様々な外国人留学生（以下、留学生）に関わる取組みを行ってまいりました。特に留学生の専門学校教育に於いて『入学を考える、学ぶ、卒業後の進路としての就職まで導く』という入口から出口までの体系化に力を注いでまいりました。取組みの一例としてベトナムやインドネシアなどの海外教育機関との積極的な交流を行い、海外における専門学校の認知・理解度を向上させ、大阪という地域特色を活かした留学生の良さを冊子にまとめた情報冊子「魅力発見BOOK」の制作など、様々な情報を発信できる「留学生支援サイト」の運営を実行することができました。

これらの取組みが実を結び、大阪の専門学校で学ぶ留学生数、そして受入れる専門学校数は数年前に比べて大きく増えました。そしてそれは量的成果だけでなく、日本語教育機関・留学生採用企業といった関係各所との連携をさらに広め、研修会や交流会を定期的に行うことができるまでの質的成果にもつながりました。

しかし現在、新型コロナウイルスの猛威は、世界中の至るところで様々な影響を与えています。人と人の往来が制限される現状において、留学生の環境は大変厳しいものであり、我々高等教育機関にとっても従来の教育手法・支援だけに囚われることなく、新たな進化が求められています。この状況の中で本委託事業である「大阪型専修学校グローバル化対応推進事業2020」は、コロナ禍における留学生支援を支える為の有意義な活動であると確信しております。ここに我々専門学校の団体組織として活動する意義と重要性をあらためて見つめなおした内容だと考えております。

留学生は、専門学校をはじめとする高等教育機関で高度な専門性・技術や日本語能力を身につけるのみならず、日本の文化を深く理解する貴重な人材です。そのために職業教育の担い手である専門学校がお互い手を取り合い、さらなる留学生への支援・教育に一層の理解を深めていくことをここに強く願います。

末筆ながら、本事業にご協力を頂きました関係各位の皆様方に心より御礼申し上げますとともに、今後も引き続き宜しくご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2021年2月

一般社団法人 大阪府専修学校各種学校連合会

留学生委員会
委員長 山下 裕貴

目 次

	ページ
はじめに	01
目次	02
第1章：委託事業概要	03
1. 委託事業名	
2. 委託事業実施期間	
3. 委託事業趣旨・目的	
4. 戦略的に外国人留学生の受入れを進める国（地域）並びに分野について	06
5. 会議の開催と連携・協力体制	07
第2章：個別事業の実施内容 委託事業実施内容 具体的な取組Ⅰ～Ⅲ	08
（1）取組Ⅰ実態把握事業① 専修学校・日本語教育機関・企業・留学生への調査 「留学生に関する実態把握アンケート調査報告書」 a）専修学校対象/ b）日本語教育機関対象/ c）企業対象/ d）留学生対象	08
（2）取組Ⅱ広報事業留学生支援サイトの現況	11
（3）取組Ⅱ広報事業① 留学生支援サイトのコンテンツ拡充と運営 e）ユーザインターフェースの改善 f）既存コンテンツの充実 g）多言語対応(LP)	14
（4）取組Ⅱ広報事業② 留学生支援サイトへの誘引 ツール制作・配布 h）留学生採用企業向け誘引ツール i）日本語教育機関向け誘引ツール j）外国人留学生受入れ校一覧 専門学校進学情報カード	18
（5）取組Ⅱ広報事業③ 留学生 映像コンテンツ制作・配信 k）留学生プレゼンテーション動画 「留学生プレゼンテーション～私が思い描く夢～」 l）学生紹介ダイジェスト動画 ※k)動画のダイジェスト版 m）専門学校紹介動画	21
（6）取組Ⅲ研修・交流事業（全体趣旨）	24
（7）取組Ⅲ研修・交流事業① 日本語教育機関との研修交流会 n）日本語教育機関進路指導担当教員のための合同オンライン進学相談会	24
（8）取組Ⅲ研修・交流事業② 専修学校教職員による外国人留学生教育研修会 o）専修学校教職員向けオンラインセミナー（第1回） 「今こそ考える留学生支援 ーコロナ禍における専門学校のチャレンジ（就職サポート編）ー」	28
（9）取組Ⅲ研修・交流事業③ 外国人留学生採用企業との交流会 p）外国人留学生採用企業交流会オンラインセミナー ～企業と専門学校教職員、専門学校在籍の外国人留学生によるオンライン交流会～	32
（10）その他報告事項 q）成果報告書の作成 r）成果報告会の開催 s）成果報告動画（文部科学省提出用）	34
（11）大専各独自の取組み 1. 大阪観光局「留学生支援コンソーシアム大阪」との連携	34
（12）取組Ⅲ①～③参加者アンケート調査結果（抜粋）	35
第3章：総括	44

第1章 委託事業概要

1. 委託事業名

2020年度文部科学省委託事業「専修学校グローバル化対応推進支援事業」
各地域における外国人留学生の戦略的受入れに向けた体制整備
大阪型専修学校グローバル化対応推進事業2020

2. 委託事業実施期間 2020年9月7日～2021年2月25日（予定）

3. 委託事業趣旨・目的

①事業の趣旨・目的

大阪府専修学校各種学校連合会(以下、大專各)は、先の3ヵ年受託事業「専修学校版グローバル化対応推進支援事業」において、広報事業と研修・交流事業という2つの柱のもと「地域における留学生の受入れのモデルケースを構築する」という目的にむかって取り組んできた。成果として、客観的にみれば大阪・専修学校という枠組みでみてもしっかりと留学生の受入れ数は増加しており、卒業後の就職など進路面でも多数の事例を挙げることができている。また主観的ではあるが、このような取り組みを行うことで、留学生を支援しようとする企業や団体などとのネットワークも構築できている。大阪観光局や大阪商工会議所との関係性などはまさしくそれにあたると言える。

そうした中で重要視したいことは、『団体組織として活動する意義』だと考える。広報活動や研修・交流などは一専修学校でも行なっている。しかし大專各という団体で広報活動や研修・交流事業を企画する意義は、専修学校のステータスを確固たるものにし、それが外国人留学生の受入れから教育、そして卒業後の進路までサポートできる教育機関であると示すことで、グローバル的に日本の職業教育にスポットがあたることになると考える。

そして、いま世界中で新型コロナウイルス感染に伴う対応で社会が大きく影響を受けている。まさしくこのコロナ禍だからこそ、団体組織として活動する必要があるといえる。まずは我々専修学校、留学生、日本語教育機関、企業といったステークホルダーの実態把握を行い、その情報をもとに今だからこそできる広報事業・研修・交流事業を行い、先の3ヵ年同様に成果へとつなげていきたい。

②事業の概要

大阪府・大阪市では平成28年度に策定した「大阪都市魅力創造戦略2020」において、重点事業として「外国人留学生の受入と定着支援」を展開することとしている。そしてKPIとして2020年に大阪で学ぶ留学生数を23,000人（平成29年21,683人）に増加させること定め、令和元年5月時点、留学生数は26,257人となっている。

その中で、令和元年5月時点8,742人の留学生が在籍する府内全域の専修学校や、7,923人の留学生が在籍する日本語教育機関が主体となり本事業に取り組むことにより、留学生の受入れを促進することはもちろん、大阪における外国人留学生の就職支援まで一貫したワンストップサービスを実現することを目的としている。

その為に本事業「大阪型専修学校グローバル化対応推進事業2020」では、次の通り3事業を計画・実施した。

第1章：委託事業概要

取組Ⅰ 実態把握事業

専修学校、留学生、日本語教育機関、企業といった留学生を取り巻くステークホルダーそれぞれの実態を調査・把握。実態に合わせて広報事業および研修・交流事業を展開することで、留学生の国籍や分野を超えた多面的な解決策を見出し、実施した。

取組Ⅱ 広報事業

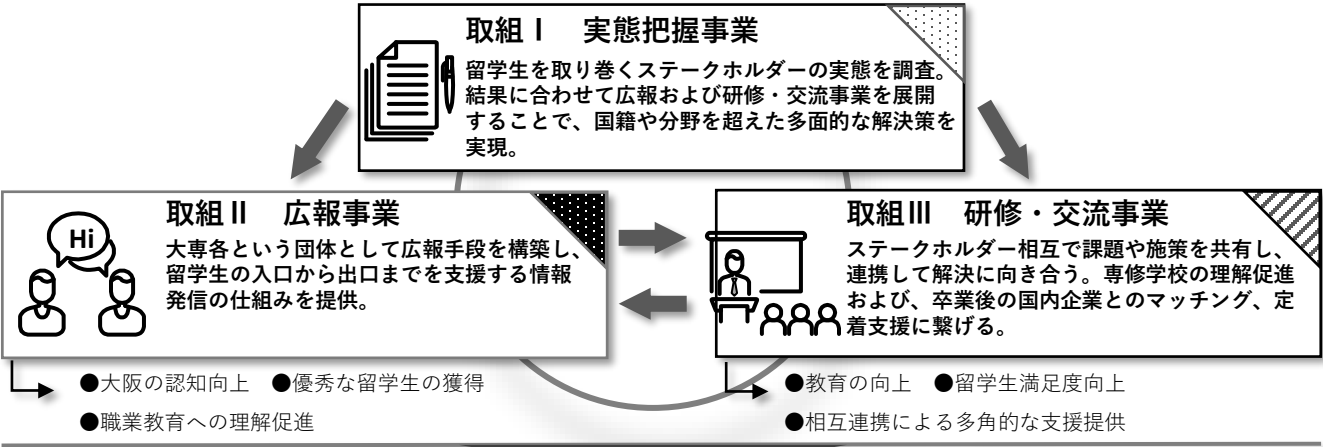
留学生を取り巻く課題に対し、大専各という団体として、必要な広報手段を構築し、入口から出口までを繋ぐ情報発信のプラットフォームと仕組みを実現した。

取組Ⅲ 研修・交流事業

ステークホルダー相互で課題や施策を共有し理解を深め、連携して解決に向き合う。これにより、専修学校の理解促進および、卒業後の国内企業とのマッチング、定着支援に繋げた。

コロナ禍のもと留学生・専修学校・日本語教育機関・企業と様々な影響がでていることを実態調査することで、現状把握と課題抽出、そして今後の展開予測など情報を集約して、WEBサイト（留学生支援サイトなど）を使って発信（実態把握事業⇒広報事業）。また集約した情報をもとに専修学校教職員の研修や日本語教育機関教員との意見交換、また企業との交流など今まで以上に厚みある取組みにつながると考えた（実態把握事業⇒研修・交流事業）。

これらの事業を通して、一学校・一企業では立ち向かえない課題に対して、団体組織として活動することで高次元の解決策へつなげる、それが「大阪モデル」としての事業取組みであり、この事例を本年は報告書にまとめあげるだけでなく、オンラインで成果報告会を開催することで他地域にもより強い伝播ができた。また、大専各という組織において、ゆくゆくは自らの力で留学生支援に取り組めるプラットフォームならびにノウハウを構築すること、つまり「自走」をひとつの目標として取り組む。



団体としての連携・ノウハウ蓄積 「大阪モデル」の構築

一学校・一企業では立ち向かえない課題に対して、団体組織として活動することで高次元の解決策へつなげる。
一連の活動が礎となり、留学生を取り巻く環境全体が発展し持続的に活性化していく。

第1章：委託事業概要

取り組み一覧			具体的内容
取組Ⅰ	実態把握事業	アンケート調査・分析	a) 留学生に関する実態把握アンケート調査報告書（専修学校対象） b) 留学生に関する実態把握アンケート調査報告書（日本語教育機関対象） c) 留学生に関する実態把握アンケート調査報告書（企業対象） d) 留学生に関する実態把握アンケート調査報告書（留学生対象）
取組Ⅱ	広報事業①	留学生支援サイトのコンテンツの拡充と運営	留学生支援サイトの現況 e) ユーザインターフェースの改善 f) 既存コンテンツの充実 g) 多言語対応（LP）
	広報事業②	留学生支援サイトへの誘引ツールの制作・配布	h) 留学生採用企業向け誘引ツール i) 日本語教育機関向け誘引ツール j) 外国人留学生受入れ校一覧 進学情報カード
	広報事業③	留学生 映像コンテンツ制作・配信	k) 留学生プレゼンテーション動画 l) 学生紹介ダイジェスト動画 m) 専門学校紹介動画
取組Ⅲ	研修・交流事業①	日本語教育機関との研修交流会	n) 日本語教育機関進路指導担当教員のための合同オンライン進学相談会
	研修・交流事業②	専修学校教職員による外国人留学生教育研修会	o) 専修学校教職員向けオンラインセミナー（第1回）
	研修・交流事業③	外国人留学生採用企業との交流会	p) 外国人留学生採用企業交流会 オンラインセミナー
その他報告事項			q) 成果報告書の作成 r) 成果報告会の開催 s) 成果報告動画（文部科学省提出用） 大専各独自の取組み

4. 戦略的に外国人留学生の受入れを進める国（地域）並びに分野について

先の3ヵ年受託事業においては、ターゲット国は「ベトナム」「インドネシア」「ミャンマー」に設定してきた。理由は非漢字圏の留学生、その中でも日本企業の経済進出、また各国々での日本への関心度などを鑑みて選定している。結果として、ターゲット国における大阪府内の専修学校および日本語教育機関在籍留学生数は増加（表－1）、あるいはターゲット国において大学と比較しても留学生数は総数・伸長率ともに高い（表－2）ことから、一定の成果を出せていると言える。

しかし現在のコロナ禍において、まず配慮すべきは国籍で分け隔てを行うのではなく、今日本にいる留学生全体ではないだろうか。日本国内の教育機関に在籍している留学生の不安を解消し、安心して日本に留まり就職まで支援することが急務であり、そうした一連の活動が礎となり日本への留学を検討している海外現地の学生へ伝播、繋がっていくと考えた。

この理由から、まず大多数・網羅性を考えるうえでは令和2年度におけるターゲット国は大阪府内の専修学校および日本語教育機関在籍留学生の上位3国「ベトナム」「中国」「台湾」（表－3）に設定し、分野においても大阪府内の留学生数上位3分野「文化・教養」「工業」「衛生」（表－4）に設定した。

しかし前述の通り、趣旨および取組みは決してターゲット国や分野にもれた留学生を蔑ろにすることなく努めるものとする。

（表－1）
大阪府内の高等専門学校・専修学校（専門課程）・
準備教育課程・日本語教育機関における留学生数

	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
ベトナム	3,985	5,581	6,981	7,501
インドネシア	328	422	511	671
ミャンマー	69	90	126	163
合計	4,382	6,093	7,618	8,335

（JASSO調べ 各年度5月1日時点）

（表－2）
大阪府内の先の3ヵ年受託事業ターゲット国における留学生数
合計の推移

ベトナム・インドネシア・ ミャンマーの留学生数	平成28年		平成29年		平成30年		令和元年	
	留学生数	留学生 数	前年比	留学生 数	前年比	留学生 数	前年比	
大学 計	662	907	137%	1,062	117%	1,178	111%	
高専・専修・準備 計	1,796	2,909	162%	3,670	126%	4,115	112%	

（JASSO調べ）

（表－3）
令和元年度大阪府内の高専・専修・準備及び
日本語教育機関の留学生数

	高専・専修・準備	日本語教育機関	合計
ベトナム	3,755	3,746	7,501
中国	2,234	1,866	4,100
台湾	825	409	1,234
：	：	：	：
全体	8,742	7,923	16,665

（JASSO調べ）

（表－4）
令和元年度 大専各会員校の分野別留学生数

分野	文化・教養	工業	衛生	教育・福祉
人数	5,162	1,063	486	472
商業	医療	服飾	農業	全体
374	283	174	45	8,059

5. 会議の開催と連携・協力体制

①実施委員会（2回）の開催

・2020年9月24日（木） ・2020年12月15日（火）

大阪の専修学校（主に専門学校）の魅力を国内外へ向けて発信するうえで、留学生の生活や就職といった面でも高い成果を求めていくことが必須である。その為に本事業「大阪型専修学校グローバル化対応推進事業」では、産官学の連携強化をし、前述の「実態把握事業」「広報事業」「研修・交流事業」へ企業・行政等と連携・実務協力を得るために、以下の（3）に記した団体を招集し実施委員会を開催した。また、最終段階での「実態把握事業」「広報事業」「研修・交流事業」内容の確認、修正と経過報告および今後の発展・活用について意見聴取を行った。

②ワーキング会議（6回）の開催

・第1回2020年 9月16日（水） ・第3回2020年11月20日（金） ・第5回2021年 1月22日（金）
・第2回2020年10月22日（木） ・第4回2020年12月18日（金） ・第6回2021年 2月25日（木）

事業実施のための現状把握、課題の共有を行い、各事業の構成について議論するための会議を開催した。

③連携・協力体制

【大阪府】

大阪型専修学校グローバル化対応推進事業の遂行にあたり、実施委員就任、行政の面からの協力及び助言を頂いた。

【大阪商工会議所】

大阪型専修学校グローバル化対応推進事業の遂行にあたり、実施委員就任、大阪の企業への周知と呼びかけの協力を得た。

【日本貿易振興機構（ジェトロ）大阪本部】

大阪型専修学校グローバル化対応推進事業の遂行にあたり、実施委員就任、企業の要望・留学生受入れの傾向など協力及び助言を頂いた。

【大阪観光局】

大阪型専修学校グローバル化対応推進事業の遂行にあたり、実施委員就任、広報面からの協力を頂いた。また大専各として、留学生支援に向けたプラットフォームの創設に関する会合に参加した。

【日本語教育振興協会】

大阪型専修学校グローバル化対応推進事業の遂行にあたり、広報面からの協力を頂いた。

【職業教育・キャリア教育財団(以下、TCE財団)】

大阪型専修学校グローバル化対応推進事業の遂行にあたり、協力・連携した。

(1) 取組Ⅰ実態把握事業①専修学校・日本語教育機関・企業・留学生への調査

「留学生に関する実態把握アンケート調査報告書」

a)専修学校対象/b)日本語教育機関対象/c)企業対象/d)留学生対象

1. 概要

専修学校、留学生、日本語教育機関、企業といった留学生を取り巻くステークホルダーそれぞれの実態を調査・把握することで、本事業全体をより効率的に推進することを目的とした。また、この実態把握により先の3ヵ年受託事業において取り組んできた様々な活動の客観的な効果検証や今後取り組むべき事項の発見・明確化されることも狙い実施した。

特に、新型コロナウイルス感染拡大の影響により留学生の置かれている状況が激変した可能性が高く、事業推進における新たな課題が生じた。ステークホルダーそれぞれが抱える課題や解決策、或いはニーズ等を把握し、本事業取組Ⅲの研修・交流事業においてケーススタディを実施することで大専各という団体としてノウハウを蓄積し、留学生の国籍や分野を超えた多面的な解決策を獲得してきた。また、この実態把握事業は、取組Ⅱの広報事業と取組Ⅲの研修・交流事業に繋げ発信していくことで、これまで同様に大阪府の取組が他地域の先行事例となることを目指した。

以上を踏まえ専修学校、留学生、日本語教育機関、企業へのアンケートならびに集計・分析を実施。定量的・定性的内容を設計し対象ごと場面と時間軸などで分類して可視化した。

2. 具体的活動

1) 内容

目指すべき姿は、上記取組により実態把握し広報事業および研修・交流事業に活用し推進することで、留学生の国籍や分野を超えた多面的な解決策を獲得していくこと。これまでの活動で連携してきた日本語教育機関・留学生採用企業に加えた。大阪観光局・JETRO、(株)ユニバーサルサポートシステムズ、(株)アクセスネクステージ等の協力を得て調査対象の母数を確保し、目標回答率を設定し実施した。

①調査対象ごとのアンケート回答率目標/専修学校70% 日本語教育機関50% 企業30%

②本調査は、WEBサイト「大専各 留学生支援サイト」にて公開し、定期的にサイト流入数や経路等进行分析し関心度を継続把握する。

③広報事業、研修・交流事業での展開をはじめ、将来的な活用も見据えた分析。

2) 実施方法

WEBアンケートフォームを作成し「大専各 留学生支援サイト」内に設置。管理・集計し以降の取組での展開を見据えた分析を実施。

3) 調査対象

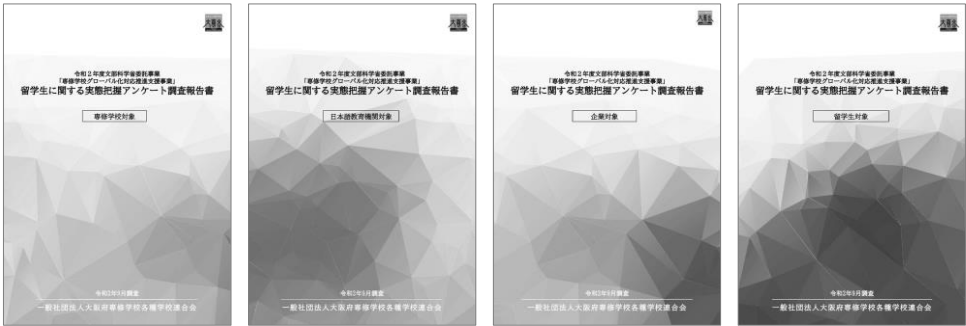
調査対象	依頼数 (予定)	依頼数 (実績)	回答数 (結果)	回答率 (結果)	条件
a) 専修学校	170	170	109	64%	・大専各会員校（専修学校162校、各種学校8校） （令和2年3月現在）
b) 日本語教育機関	74	145	49	33%	・近畿エリアの法務省告示校 令和2年5月15日法務省告示第619号 滋賀県1京都府25大阪府74兵庫県35奈良県8和歌山県2
c) 企業	1,500	76,200	414	0.5%	・(株)ユニバーサルサポートシステムズ 「Career Map」登録企業
d) 留学生 ※事業実施中に追加	—	—	996	—	・(株)アクセスネクステージ 「アクセス日本留学」登録学生約1,450名 滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山在住/2021年3月～2022年3月卒 ・大専各会員校在籍留学生

4) 成果物

アンケート調査報告書の完成と大専各留学生支援サイトへの公開（2020年12月3日）

公開アドレス<https://study-osaka.com/r2seika/>

- a) 留学生に関する実態把握アンケート調査報告書（専修学校対象）
- b) 留学生に関する実態把握アンケート調査報告書（日本語教育機関対象）
- c) 留学生に関する実態把握アンケート調査報告書（企業対象）
- d) 留学生に関する実態把握アンケート調査報告書（留学生対象）



3. KPI（成果指標又は重要業績指標）の設定と達成状況

1)KPIの設定

本取組みにおけるKPIは、アンケート回答率とする。

2)KPIの計測・評価

取組	具体的内容	KPI (目標) 回答率	KPI (結果) 回答率	達成可否	回答数（結果）
アンケート調査・分析	a)専修学校	70%	64%	×	109
	b)日本語教育機関	50%	33%	×	49
	c)企業	30%	0.5%	×	414
	d)留学生	-	-	-	996

※KPI設定根拠：分析を行うに際して必要だと判断した数値をもとに試算。

4.本取組みの成果と新たに顕在化した課題、事業終了後の目指すべき指標

1) 本取組の成果と新たに顕在化した課題

成果として、このコロナ禍における留学生を取り巻く環境というものが、調査対象別で客観的に把握できたことは大きいといえる。そして後述する企業交流会などで調査結果を情報共有できたことも良い取組連携となった。しかし課題としては回答率が当初設定した数値まで届かなかった点はあげられるが、この点は依頼方法や時期、またそもそも回答率だけにこだわるのではなく依頼数を増やす方法を検討していくべきだと考える。今回企業向けに行った調査では、大専各で推奨する専門職の就活プラットフォームCareerMap(キャリアマップ)の登録企業約76,000団体に調査依頼を行った。他の調査対象も同様に依頼数、回答数を増やすことが今後の課題である。

2) 事業終了後の目指すべき指標

この事業では「留学生に関する実態把握アンケート」調査を行い、成果として報告書作成とサイト公開を実施。今後は同様に定点で調査することで、経年による変化や傾向を把握し。別事業においても調査内容を活用していく。アンケート回答数（依頼数）は各対象者とも今年度を下限として回答数を増やしたい。企業対象の調査においては、今後も企業登録数が増えると想定されるCareerMap(キャリアマップ)等を引き続き活用して回答数（依頼数）を増やしていきたい。また対象企業にはアンケート趣旨への理解を促し、回答にご協力いただけるよう、努める。

第2章：個別事業の実施内容

5.取組Ⅰ 実態把握事業 アンケート調査・分析 調査結果抜粋

①企業向け

- ・回答のあった企業の傾向として、約60%の企業が外国人従業員を採用しているが、外国人従業員の採用数は10人以下が最も多い。
- ・コロナ禍以前と以降での留学生の課題について質問したところ、コロナ禍以降で回答数が増加。「経済面」「学修スピード」「生活環境」「就職活動」の回答が伸びた一方で、「日本語コミュニケーション」「文化的・宗教的な問題」の項目が減少した。前者はアルバイトができなくなったことを含む経済状況の悪化、前者の「学修スピード」と後者については、対面授業の機会が減って留学生個々をケアしにくくなった状況が関連していると思われる。
コロナ以前と以降の進学、採用に関する指導面での課題について大きく変化があったのは「採用の減少・厳格化」でおよそ4.4倍増加。
- ・行政等に対する支援の要望としては、「経済面が逼迫する留学生への支援」が最も多かった。

②専修学校向け

- ・コロナ禍以前と以降での留学生の課題について質問したところ、コロナ禍以降で回答数が増加。「経済面」「学修スピード」「生活環境」「就職活動」の回答が伸びた一方で、「日本語コミュニケーション」「文化的・宗教的な問題」の項目が減少した。前者はアルバイトができなくなったことを含む経済助教の悪化、前者の「学修スピード」と後者については、対面授業の機会が減って留学生個々をケアしにくくなった状況が関連していると思われる。
- ・コロナ以前と以降の進学、採用に関する指導面での課題について大きく変化があったのは「採用の減少・厳格化」でおよそ4.4倍増加。
- ・行政等に対する支援の要望としては、「経済面が逼迫する留学生への支援」が最も多かった。

③日本語教育機関向け

- ・新型コロナウイルス影響下における留学生の入国状況について、「入国できていない」と回答した学校は、59.2%。半数以上の学校で、留学生の入国ができておらず、入国者数が5%以下の学校と合わせると、89.8%もの学校で留学生の入国がなく、新型コロナウイルス感染拡大による大きな影響が見られた。
- ・今後受験を控える留学生に対しての進学先（大学・専門学校）への期待と要望について、「入学試験の柔軟な運用」が最も多く、45.8%。次いで、「経済的支援・猶予」が39.6%だった。
- ・日本語教育機関における最も喫緊の課題としては、「入国規制緩和の際の留学生の優先的な入国への配慮」が最も多く、85.4%の回答が集まった。

④留学生向け

- ・日本留学の目的は「c.将来、大学や専門学校を卒業したあとに、日本国内または日本の企業で働きたいから」が最多。
- ・関西エリアを選んだ理由としては、「a.友達に紹介されたから（29.0%）」「c.行きたい学校があったから（28.7%）」「d.生活しやすそうだったから（30.6%）」。在籍機関の選択理由も同様に「b.友だち・先輩・家族に紹介されたから」が最も多く26.0%。
- ・これからの目標、将来の希望は日本留学の目的同様に「日本で働きたい」という回答が7割以上と最も多かった。
- ・現在困っていることとしては、「c.お金が足りない」が最も多く回答数590（60.5%）。

第2章：個別事業の実施内容

(2) 取組Ⅱ 広報事業① 留学生支援サイトの現況

1. 概要

大専各では、留学生や日本語教育機関、留学生採用企業に情報を発信できる「留学生支援サイト」がある（<https://study-osaka.com/>）。「留学生支援サイト」は、過去3か年の本事業の中で課題分析と改善を継続し、ターゲットへの情報拡充を行ってきた。2019年度は平成29年度・30年度の事業内容をより発展させ、ユーザニーズの高い受入れ校一覧の各校更新化や情報更新など、留学生を取り巻くステークホルダーに向けた『より見られるWebサイト』としてサイト構築とコンテンツの拡充を行った。結果は以下の通り、利用者数と質の向上が見られる。〔参照図-2,3〕

〔参照図-2〕新サイトと旧サイトによるパフォーマンス比較（※新サイトは、2018年10月～2020年3月）

セッション数	平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2019年度	1126.55	933	750	706	872	788	1239	1738	1244	1072	1104	1046	900
2018年度	933.25	1181	894	1104	1003	1086	802	973	595	673	1238	760	890
2017年度	994.25	767	985	1101	972	840	940	992	982	863	950	1142	1397
■新サイト平均: 973.39													
海外からのセッション数	平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2019年度	142.64	260	117	145	159	137	73	131	141	148	97	92	69
2018年度	137.75	109	77	161	91	374	96	139	72	62	104	65	303
2017年度	97.58	75	135	68	83	69	66	115	77	83	73	201	126
■新サイト平均: 128.56													
PV数/セッション	平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2019年度	3.47	2.01	1.82	1.65	3.85	2.96	3.27	4.42	4.68	3.3	3.43	3.44	3.3
2018年度	2.14	1.73	1.65	1.95	2.01	2.16	2.35	2.91	2.85	2.19	1.76	2.19	1.92
2017年度	1.58	1.63	1.57	1.7	1.46	1.38	1.92	1.55	1.45	1.59	1.42	1.51	1.8
■新サイト平均: 2.89													
直帰率	平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2019年度	66.7%	76.42	71.6	75.78	64.91	64.21	53.27	41.66	55.14	58.68	56.25	57.07	58.56
2018年度	70.7%	82.73	80.65	78.08	76.67	74.03	68.7	52.62	50.25	61.81	77.95	68.55	76.29
2017年度	81.4%	81.36	82.44	79.47	82.2	83.21	79.15	81.65	83.71	81.23	83.47	78.28	80.89
■新サイト平均: 62.28													

〔参照図-3〕PV数ランキング（2019年4月～2020年3月合計）

	ページ	ページビュー数	ページビュー数 (%)
ビザ情報	1. /attractiveness/accept_situation/	9,229	22.21%
TOP	2. /	5,560	13.38%
受入れ校一覧	3. /attractiveness/working_visa/	1,961	4.72%
出前授業	4. /demaee/	936	2.25%
	5. /graduates/	821	1.98%
	6. /attractiveness/data/	744	1.79%
	7. /movie/	507	1.22%
	8. /study_j/	495	1.19%
	9. /attractiveness/charm/	464	1.12%
	10. /for_educator/	427	1.03%

左図の通り、2019年度重点改修を行った

1. 留学生受入れ校一覧、3. ビザ情報、4. 出前授業とも高いPV数となっており、ユーザニーズに合致した改修だったと言える。

第2章：個別事業の実施内容

後述するが、2019年度設定したKPIと比較すると一部未達成である。しかし、各数値の推移からわかるとおり、コンテンツの拡充を行ったことで、『より見られるWebサイト』へと発展しており、大阪の専修学校における入口から出口までを繋ぐ情報発信のプラットフォームとして今後も十分活用できる。また、月々ユーザ数にバラつきはあるものの、〔参照図-2〕にあるとおり、山場が所々にでている。これは、別取組みの誘引ツールの発送や配布、企業交流会といった施策実施後に上昇しており、Webサイトが情報発信の役割を十分果たしているといえる。コロナ禍で情報収集手段が限られる現環境において支援サイトでの情報発信が果たすべき役割は従来より格段に重要となっている。当面の課題は留学生本人からのサイト流入数の向上と捉えていたが、コロナ禍において国内留学生へ向けた支援情報不足が生じている。このような留学生ニーズに応える情報発信の強化が急務であることから以下を実施した。

- ・ 留学生支援サイトの現況把握
- ・ e) 留学生支援サイトユーザインターフェースの改善
- ・ f) 既存コンテンツの充実
- ・ g) 多言語対応 (LP)

上記項目を重点的な改修・補完に選んだ理由は、コロナ禍において十分な日本語教育体制が整わない現環境下、日本語能力に課題を抱える国内留学生への支援情報の発信という課題を解決するためである。

2. 具体的活動

1) 内容

留学生支援サイトの現況

留学生支援サイトの改修・補完は、広報事業①のe),f),g)の実施に加え、細かな仕様などは留学生支援サイトの運営プロジェクト担当を中心に協議を重ね、ワーキング会で定期報告を行った。また誘引ツールプロジェクト担当、映像コンテンツ制作担当とも連携し、サイトの特徴・優位性などを相互に連携・協力した。そのような中で成果目標の指針として以下のような考えで進めた。客観的活動指標は、Google Analyticsによるログ解析をもとに定点観測を行い、改善、結果に繋がった。

- ターゲット1. 国内の日本語教育機関に在籍している留学生
- ターゲット2. 国内の日本語教育機関の教職員
- ターゲット3. 国内の留学生採用企業（検討企業含む）
- ターゲット4. 海外現地の日本留学に興味がある方・日本語教育機関

（ログ解析結果 2021年1月20日時点）

- ・ 2月までは対前年比を上回る推移だが、3月以降新型コロナウイルスの影響拡大とともに海外セッション数を中心に大幅減
- ・ 9月以降、アンケート調査、誘引ツール発送、各種オンラインセミナーなどサイト流入施策の結果、セッション数等は前年比増まで回復。



第2章：個別事業の実施内容

■Google Analytics ※2018年10月1日より下記URLの新サイトに切替
・検証URL：<https://study-osaka.com/> ・検証期間：～2021年1月20日

セッション数	平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2020年度	1044.90	667	608	842	907	777	1307	1567	1806	1321	647		
2019年度	1032.67	933	750	706	872	788	1239	1738	1244	1072	1104	1046	900
2018年度	933.25	1181	894	1104	1003	1086	802	973	595	673	1238	760	890
2017年度	994.25	767	985	1101	972	840	940	992	982	863	950	1142	1397

海外からのセッション数	平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2020年度	75.20	35	38	66	108	51	88	93	122	95	56		
2019年度	130.75	260	117	145	159	137	73	131	141	148	97	92	69
2018年度	137.75	109	77	161	91	374	96	139	72	62	104	65	303
2017年度	97.58	75	135	68	83	69	66	115	77	83	73	201	126

PV数/セッション	平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2020年度	3.52	3.34	2.55	3.01	3.47	5.72	3.35	4.18	3.27	3.25	3.08		
2019年度	3.18	2.01	1.82	1.65	3.85	2.96	3.27	4.42	4.68	3.3	3.43	3.44	3.3
2018年度	2.14	1.73	1.65	1.95	2.01	2.16	2.35	2.91	2.85	2.19	1.76	2.19	1.92
2017年度	1.58	1.63	1.57	1.7	1.46	1.38	1.92	1.55	1.45	1.59	1.42	1.51	1.8

直帰率	平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2020年度	58.6%	57.57	62.83	62.23	62.18	53.93	56.69	54.69	57.2	57.61	61.05		
2019年度	61.1%	76.42	71.6	75.78	64.91	64.21	53.27	41.66	55.14	58.68	56.25	57.07	58.56
2018年度	70.7%	82.73	80.65	78.08	76.67	74.03	68.7	52.62	50.25	61.81	77.95	68.55	76.29
2017年度	81.4%	81.36	82.44	79.47	82.2	83.21	79.15	81.65	83.71	81.23	83.47	78.28	80.89

白文字は新サイトでの数値

PICK UP

- ・今年度も「受入れ校一覧」の閲覧が圧倒的に多い。各種セミナーのお知らせページが次ぐが、「プレゼン動画のお知らせ」や「成果物ページ」も閲覧数を伸ばしている。
- ・「閲覧開始」とは最初に流入してきたページ。最初に受入れ校一覧が閲覧されている数値が高い。誘引ツールから「受入れ校一覧」への直接流入や、「大阪 留学生」で検索結果1位に表示されることが要因として考えられる。※10月は更新作業でのアクセスが多い。

アクセス数ランキング（2020.10.1～）

	コンテンツ内容	PV	閲覧開始
1	受入れ校一覧	3861	907
2	TOP	1954	1102
3	企業交流会のお知らせ	623	304
4	教職員セミナーのお知らせ	466	233
5	データで見る外国人留学生	460	314
6	専門学校MOVIE	349	49
7	プレゼン動画公開のお知らせ	320	155
8	働く・活躍する卒業生	297	53
9	令和2年度成果物	260	56
10	1/28セミナー案内	206	116

海外からの国別アクセス

	国
1	中国
2	アメリカ
3	台湾
4	ベトナム
5	韓国
6	香港
7	ミャンマー
8	インド
9	カナダ
10	スリランカ

第2章：個別事業の実施内容

(3) 取組Ⅱ広報事業① 留学生支援サイトのコンテンツ拡充と運営

1. 概要

e) ユーザインタフェースの改善

これまでの解析を根拠にコンテンツ導線を見直し、ユーザ回遊性と満足度の向上に取り組んだ。具体的には、現在最も閲覧されている「受入れ校一覧情報」を軸に動的コンテンツ情報を再編し、国内留学生とそのステークホルダーに必要な情報が行き届く環境を強化する。また、情報不足解消の一環として留学生の支援を実施する外部団体サイトとも連携し関係団体による取組の周知を図るなど、取組Ⅰにおける調査結果を十分反映し、留学生に多角的に情報が届く仕組みを構築した。

f) 既存コンテンツの充実

過年度事業にてCMS対応済みの受入れ校一覧、専門学校MOVIE、卒業生紹介コンテンツについてはユーザ利便性向上の目的でさらなる充実を図った。

また今後の検証材料を得るため、Google Analyticsによるログ解析を継続的に実施した。

2. 具体策

ログ解析を根拠にコンテンツ導線を見直し、ユーザ回遊性と満足度の向上に取り組んだ。具体的には、現在最も閲覧されている「受入れ校一覧情報」を軸に、動的コンテンツ情報を再編し、国内留学生とそのステークホルダーに必要な情報が行き届く環境を強化した。

①TOPページレイアウト見直し

- ・下部閲覧性が低い分析結果から、縦長の構造を改めスクロール量を減少
- ・閲覧数の多い「受入れ校一覧情報」をグローバルメニュー化
- ・お知らせ表示数、サムネイル表示方法を見直し

②コンテンツ間導線の見直し

- ・受入れ校一覧/卒業生/MOVIEの相互リンク化
- ・卒業生：検索項目を変更（出身国＆フリーワード検索に分野追加）
- ・MOVIE：検索項目を変更（フリーワード検索に分野追加）
- ・上記導線改善に伴う各コンテンツPV数の期待値向上

③受入れ校一覧の利便性アップ

- ・受入れ校一覧各校ページから各校オフィシャルサイトへのリンク（複数のURLを設定できるよう改修）
- ・受入れ校一覧ページお知らせ活用マニュアルの改善更新（更新者の知識量に左右されないようより解りやすく）。

3. 本取組みの成果と新たに顕在化した課題、事業終了後の目指すべき指標

1) 本取組の成果と新たに顕在化した課題

2018年10月から新サイトとして運用してきているが、そこから旧サイトに比べると各段にサイトのパフォーマンス（セッション数や直帰率など）が上がっている。google検索キーワード「大阪 留学生」では受入れ校一覧が1位表示に、「外国人 専門学校」でも1位表示（2021.01.22現在）。自然流入の増加が見込めるよいサイトとなったことが大きな成果である。

留学生受入れ校一覧を見ていただきたいという私たちが狙っている方向性にしっかりマッチしている。但し現状は、どうしても本委託事業終了から次年度委託事業開始までの期間はパフォーマンスが悪くなっており、この空白期間にどのような対応をしていくかが課題と言える。

2) 事業終了後の目指すべき指標

引き続き、留学生支援サイトの月別ログ解析を確認・把握していくことにより、更なるブラッシュアップなど運用に反映していきたい。目標とすべき指標については、現状パフォーマンス（セッション数や直帰率など）等を下限とし徐々に改善を行っていきたい。

課題としている委託期間外のパフォーマンスの低下については、委託期間に製作した動画のYouTubeの配信など委託事業で可能な範囲内の運用を行うことにより、パフォーマンスの維持に努める。

4. 成果物

大専各留学生支援サイト（随時更新） <https://study-osaka.com/>



第2章：個別事業の実施内容

g) 多言語対応 (LP)

1. 概要

現在の4言語のLP（ランディングページ）はあるが、制作から3年が経ち、サイト全体の内容とリンクできていない部分が多い。アフターコロナも見据えた施策として、LPを6言語（英語、簡体字、繁体字、ベトナム語、ミャンマー語、インドネシア語）対応とし、海外からの流入も意識した設計とする。またその際、「e) ユーザインタフェースの改善」とも連携し、動的な情報が留学生本人に届く仕組みを構築した。

2. 具体策

- ①多言語コンテンツと支援サイトの親和性向上、留学生における「大阪の専門学校」の認知向上のため、LPとしてリニューアル。
- ②コロナ禍における国内留学生への情報提供を念頭におくが、アフターコロナも見据えた施策として、渡日前留学生の利用も意識した設計とした。



3. 成果物

取組Ⅱ広報事業①多言語対応LP（2020年12月末公開）

英語 <https://study-osaka.com/lp/en/>

繁体字 <https://study-osaka.com/lp/hantai/>

簡体字 <https://study-osaka.com/lp/kantai/>

ベトナム語 <https://study-osaka.com/lp/vietnam/>

インドネシア語 <https://study-osaka.com/lp/indonesia/>

ミャンマー語（ビルマ語） <https://study-osaka.com/lp/burmese/>

第2章：個別事業の実施内容

4. KPI（成果指標又は重要業績指標）の達成状況

※取組Ⅱ広報事業①～③KPIまとめです。

1) KPIの設定

項目（各数値は月間平均）	考え方
セッション数	どれだけアクセスされたのか？
海外からのセッション数	海外からのアクセスはどうだったのか？
PV数/セッション数	アクセスした人が、しっかりとサイトを閲覧しているのか？
直帰率の低減	魅力あるサイトなのか？

2) KPIの設定計測・評価

取組	具体的内容	KPI （目標） 2020年度	KPI （結果） 2020年	達成 可否	参考	KPI （目標） 2019年度	KPI （結果） 2019年度	達成 可否
取組Ⅱ留学生支援サイトのコンテンツ拡充と運営	セッション数	1,500	1,686	○		1,000	1,491	○
	海外からの月間セッション数	200	107	×		200	136	×
	PV数/セッション数	3.5	3.72	○		3.0	4.53	○
	月間直帰率の低減	50%	55.9%	×		50%	47.28%	○

※KPI設定根拠：過年度成果を参考に設定。

5. 本取組みの成果と新たに顕在化した課題、事業終了後の目指すべき指標

1) 本取組みの成果と新たに顕在化した課題

多言語LPは、改善すべき点がある仕様であった。本年度委託事業内で対応できたことは大きな進歩だと言える。まだ実装して間がないためにこのLPによる効果は未知数ではあるものの、新型コロナウイルス感染拡大により、海外からの接触や人の行き来が制限されてしまった現在において、比較的容易に海外との接点を持つことができるWEBサイト・留学生支援サイトは非常に重要だと言える。今後はこの点をもっと磨いていく必要がある。

2) 事業終了後の目指すべき指標

本取組みとしては、海外からのアクセスにどう結び付けていくかだと考える。ランディングページはPRツールとして、今後も情報発信を行っていききたい。また、実装後のログ解析の確認・把握をしながら、ポストコロナを考慮し今後の海外へのアプローチ手段判断材料としたい。

第2章：個別事業の実施内容

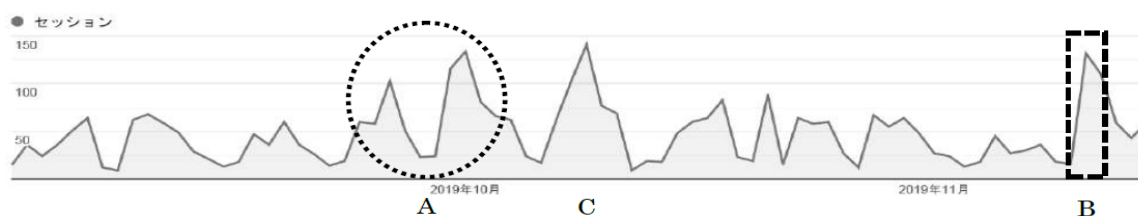
(4) 取組Ⅱ広報事業② 留学生支援サイトへの誘引ツールの制作・配布

1. 概要

前述の取組みである『留学生支援サイトのコンテンツ拡充と運営』は、ターゲットユーザーに『より見られるWebサイト』とする目的のため行うものである。ターゲットの閲覧満足度を向上させるための取組みは必要ではあるが、その取組みは特別に新たな訪問者を連れてくる効果には繋がらない。そのため、コンテンツを拡充した留学生支援サイトをより多くのユーザーに閲覧してもらうための別途誘引施策が必要である。

「留学生支援サイトへの誘引ツールの制作・配布（以下、誘引ツール）」は、留学生を高等教育機関へ送り出す国内の日本語教育機関、留学生採用を検討する日本企業など、入口から出口まで留学生にかかわるすべての方に大阪の専修学校で学ぶ魅力、専修学校の職業教育のレベル・質の高さ、ステークホルダーにとって今必要な情報を伝える広報ツールとしてH30年度、2019年度と作成、活用した。結果、〔参照図-4〕の通りに留学生支援サイトのセッション数で一定の反響が出た。

〔参照図-4〕 2019/9/1-2019/11/15 留学生支援サイト ログ解析 日別セッション数



A：日本語教育機関、企業へツールを一斉配布した直後の反応（誘引ツール）

B：日本語教育機関にツールを配布した際の反応（進学情報カード）

C：サイトリニューアルとイベント告知によるセッション増（誘引ツール以外の要因）

現在、新型コロナウイルス感染症の影響で採用活動においては各企業とも慎重な姿勢を見せているが、中長期的な課題としては、どの業界も人材不足が深刻な問題となっており、企業としては外国人雇用、特に留学生の採用にとっても関心を示している。また日本語教育機関は、在籍している留学生の卒業後の進路選択のひとつとして専門学校を理解してもらう必要がある。そのきっかけとして、2020年度においても、誘引ツールを用いてWebサイトへの誘導を行うものと考えた。

具体的な制作物としては2019年度事業を継続し、下記の3ツールを製作した。

h) 留学生採用企業向け誘引ツール

i) 日本語教育機関向け誘引ツール

j) 外国人留学生受入れ校一覧専門学校 進学情報カード

各ツールの仕様において、基本的には過年度内容を踏襲するが、本取り組みについて、今後も大きく変化していく留学生環境に対応すべく、年度更新での制作を行い環境に合わせて改善していく。また、継続的に支援サイトの周知を図ることで、ステークホルダーの認知度とサイト価値を向上させ、将来的には本事業による必要経費補助なく「自走」できる大阪の留学生専修学校情報リーディングサイトをめざす。

第2章：個別事業の実施内容

2. 具体的活動

1) 内容

前述の3ツールについて、下記の通り制作、配布を行った。

制作物	仕様	構成	配布先
h) 留学生採用検討企業向け誘引ツール	A4サイズ 4P/4色 印刷部数 5,000部	コンテンツを拡充した留学生支援サイトを、より多くのユーザに閲覧してもらうための誘引施策として前年度から継続して実施。	10/27,11/9発送 企業1,697件各1部、会員校、他専各、行政、その他
i) 日本語教育機関向け誘引ツール	A4サイズ 4P/4色 印刷部数 5,000部	コンテンツを拡充した留学生支援サイトを、より多くのユーザに閲覧してもらうための誘引施策として前年度から継続して実施。	10/27,11/9発送 全国日本語学校778件各5部、会員校、他専各、行政、在日領事館7件各5部他
j) 外国人留学生受入れ校一覧 専門学校進学情報カード	A4サイズ 4P/4色 印刷部数 1,500部 102P (表紙含む)	・前年度から継続して、支援サイト内で最も閲覧数が多い「留学生受入れ校一覧」を冊子化し、一覧性と保存性を確保。 ・更なる専門学校理解促進ならびに情報カード利用促進を目的に、巻頭に編集ページを追加。 2020年度掲載校数79校 2019年度81校（2019年度より新規掲載8校、6校見送り、4校会員脱退）	11/9発送 全国日本語学校772件、大専各会員校170件、全国専各連事務局等、48件、事務局400部他

3. K P I（成果指標又は重要業績指標）の達成状況

1) KPIの設定

本取組みにおけるKPIは、「留学生支援サイト」Google Analyticsによるログ解析数値とした。

h)、i) について、「広報事業1」により拡充した支援サイトの周知・利用促進を目的とし、配布時期のアクセス数増加量と対象コンテンツのPV数を成果指標として捉える。配布実績等は前記を参照。

j) について、支援サイト内で最もPV数が多い「留学生受入れ校一覧」を冊子化することで一覧性と保存性を強化。日本語教育機関での冊子および支援サイトの利用を促進する。成果指標としてはh)、i) 同様、発送後の流入数とPV数でとらえる。配布目標等は上記を参照。

2) KPIの計測・評価

取組	具体的内容	KPI (目標) 2020年度	KPI (結果) 2020年	達成可否	参考	KPI (目標) 2019年度	KPI (結果) 2019年度	達成可否
取組Ⅱ 留学生支援サイトへの誘引ツール	セッション数	1,500	1,686	○		1,000	1,491	○
	海外からの月間セッション数	200	107	×		200	136	×
	PV数/セッション数	3.5	3.72	○		3.0	4.53	○
	月間直帰率の低減	50%	55.9%	×		50%	47.28%	○

※KPI設定根拠：過年度成果を参考に設定。

第2章：個別事業の実施内容

4.本取組みの成果と新たに顕在化した課題、事業終了後の目指すべき指標

1) 本取組の成果と新たに顕在化した課題

留学生支援サイトについて前述の通り、2018年10月から新サイトとして運用、そしてそこから旧サイトに比べると各段にサイトのパフォーマンス（セッション数や直帰率など）があがっている。閲覧してくれている内容も、受入れ校一覧が一番多いといった、私たちが狙っている方向性にしっかりマッチしている。但し現状は、どうしても本委託事業終了から次年度委託事業開始までの期間はパフォーマンスが悪くなっており、この空白期間をどうしていくのが課題といえる。そういった意味でも誘引ツール、情報カードは、配布するタイミングにセッション数などが上昇する傾向となるので、空白期間の対処に活用できるヒントがあるかもしれない。

2) 事業終了後の目指すべき指標

引き続き、留学生支援サイトの月別ログ解析を確認・把握していくことにより、更なるブラッシュアップなど運用に反映していきたい。また、誘引ツールの仕様については、次年度以降、印刷物以外のツールの検討が必要である。

5.成果物



h) 留学生採用企業向け
誘引ツール



i) 日本語教育機関向け
誘引ツール



j) 外国人留学生
受入れ校一覧
専門学校
進学情報カード

第2章：個別事業の実施内容

(5) 取組Ⅱ広報事業③ 留学生映像コンテンツの制作・配信

k) 留学生プレゼンテーション動画「留学生プレゼンテーション～私が想い描く夢～」

l) 学生紹介ダイジェスト動画 ※k)動画のダイジェスト版

m) 専門学校紹介動画

1. 概要

大専各では平成29年度「専修学校グローバル化対応推進支援事業」のもと、映像コンテンツを制作。現在もYoutubeを通じて公開しており、支援サイトリニューアル後は動画のインプレッションも大きく増えた。結果、大阪の専修学校における職業教育周知の一助となっていると言える。映像コンテンツを活用した広報は年々拡大している市場規模（図－1）からも効果的であり、今後5Gサービスの普及によりその需要も更に高まるとされている。この環境は留学生に対しての情報伝達手段としても有効である。



本取組みの課題は、平成29年度事業での制作映像は海外TV番組での放映を目的としたため、20分長のボリュームとなっているが、リサーチするにWEB動画の平均視聴時間は3分弱となっており途中での離脱者が多く観測されている。また、こうした長尺の動画は、各種SNSでの共有・拡散を前提とした現在のトレンドとは異なっている。そしてコロナ禍により大きく変化している社会環境において、今こそWEBサイト、そしてその中にある魅力あるコンテンツとして映像コンテンツの配信は必要不可欠だと考えた。

具体的な成果物としては、コロナ禍による影響を踏まえ、「専修学校の職業教育・指導に対する安心感の醸成」を目的として、現環境下において発信すべき情報を編集した。また、必要な情報を段階的に発信する計画を立案・実施した。

(1) コロナ禍で発生した新たな（切実な）ニーズへの対応

日本語教育機関在籍学生および留学生採用企業を対象に、日本での進学・就職、あるいは採用に対する不安を払拭する内容に編集（専修学校在籍留学生の現況／アルバイト／生活支援情報等）。

(2) 大阪の専修学校における高度な職業教育の訴求

日本語教育機関在籍学生および留学生採用企業を対象に、日本での進学・就職に対する意欲を喚起する内容に編集。大専各という団体組織として発信することで、専修学校の教育と留学生支援に対する信頼を強化していきたい。

第2章：個別事業の実施内容

2. 具体的活動

1) 内容・具体策

- ・平成29年度本事業にて制作した「映像コンテンツ」を、現在の社会環境やトレンドに合わせてリニューアル制作。
- ・日本語教育機関および在籍学生、企業を対象に、日本での進学・就職、あるいは採用に対する不安を払拭することを目的とした。
- ・専門学校で学ぶ留学生の想いやスキルなどを、企業や社会に向けて発信することは専門学校業界全体の啓発活動につながり、長期的には留学生採用企業の間口を増やす一助になることを目的とした。

制作物	動画テーマ	内容	配信（結果）
k) 留学生プレゼンテーション動画	「専門学校に通う留学生のプレゼンテーション～私が想い描く夢～」	①留学生プレゼンテーションを実施した学校（9校） 修成建設専門学校、駿台観光＆外語ビジネス専門学校、 大阪バイオメディカル専門学校、大阪ホテル専門学校、 大阪調理製菓専門学校、ホンダテクニカル関西、 エール学園、ECCコンピュータ専門学校、 大阪調理製菓専門学校 ecole UMEDA ②1名 約5分動画 ③取組Ⅲ研修交流事業「外国人留学生採用企業交流会 オンラインセミナー」に合わせて事前配信。	◆11/17より大専各留学生支援サイトおよびオフィシャルYoutubeチャンネルにて公開 約1,980回再生 うち、ベトナム現地で357回、ミャンマー現地で10回再生 (20210122現在)
l) 学生紹介ダイジェスト動画	k)の動画の学生紹介ダイジェスト動画	①プレゼンテーションを実施する学生の在籍学校、学んでいること等を紹介する動画。 ②取組Ⅲ研修交流事業「外国人留学生採用企業交流会 オンラインセミナー」当日に配信。	◆12/3より大専各留学生支援サイトおよびオフィシャルYoutubeチャンネルにて公開 約160回再生 (20210122現在)
m) 専門学校紹介動画	紹介動画 ①-A「大阪で学ぶ魅力」 ①-B「目指せる就職」 ①-C「安心訴求」	・専門学校紹介動画 (日本語字幕版・英語字幕版 それぞれ約2分30秒) 「大阪で学ぶ魅力」、「大阪の専門学校の魅力 (職業教育の内容・分野と各種サポート)」 を中心として主に入口を訴求。 ・アニメーションなども取り入れ、留学生本人にも わかりやすいコンテンツとした。 ・留学生支援サイトおよび各言語LPトップページで閲覧 可能にし、情報発信の導入として閲覧してもらう 構成とした。	◆1月21日より公開 約40回再生 (20210122現在)

- ・制作進行においては、新型コロナウイルス感染対策を行い、時期や状況も考慮して進める。

3. K P I（成果指標又は重要業績指標）の達成状況

1) KPIの設定

以上のような具体的取り組みを通して、成果目標の指針は広報事業①②と同様に、留学生支援サイトの成果と連携させるが、映像コンテンツ独自の指標として「再生回数」「平均再生時間」は定点観測していく。

<令和2年度 KPIの設定>

項目	2019年度実績	2020年度 KPI
再生回数	1,283	1,500
平均再生時間	2:43	3:00

2019年度実績はH29年度成果物実績を目標の立脚点として計測。（496日累計）
再生回数は各言語・テーマ合計、平均再生時間は視聴完了時間より設定。

第2章：個別事業の実施内容

2) KPIの計測・評価

取組	具体的内容 2021年1月22日時点	(目標) 2020年度	(結果) 2020年	達成可否
取組Ⅱ広報事業 ③留学生映像コンテンツの制作・配信	k) 留学生プレゼンテーション動画	再生回数 1,500	◆11/17より大専各留学生支援サイトおよび オフィシャルYoutubeチャンネルにて公開 約1,980回再生 うちベトナム現地で357回、ミャンマー現地で10回再生 (20210122現在)	○
	l) 学生紹介ダイジェスト動画	—	◆12/3より大専各留学生支援サイトおよび オフィシャルYoutubeチャンネルにて公開 約160回再生 (20210122現在)	—
	m) 専門学校紹介動画	—	◆1/21より大専各留学生支援サイトおよび オフィシャルYoutubeチャンネルにて公開/約40回再生 (20210222現在) 1/26より支援サイトトップページおよび各言語LP上部に掲載し 視聴を促す (20210122現在)	—

※KPIの計測・評価※KPI設定根拠：指標としては「再生回数」「平均再生時間」は定点観測。

PICK UP (20210122現在)

その他数値分析データ (2020年11月17日以降の大専各公式Youtubeチャンネル解析)

- ・ユニーク視聴者数 1,113人
- ・外部サイトからの流入割合 37.6% うち、74.9%がfacebookからの流入
- ・平均視聴時間 2:13
- ・視聴者あたりの平均視聴動画数 1.8

4.本取組みの成果と新たに顕在化した課題、事業終了後の目指すべき指標

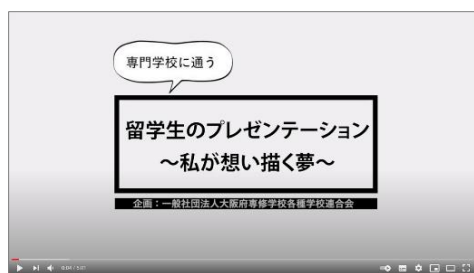
1) 本取組みの成果と新たに顕在化した課題

企業交流会に参加頂いた方々からのコメントとして、「留学生のプレゼンテーション動画」はたいへん良い評価を得ている。志高く、しっかりした日本語力を持った留学生が専門学校で学んでいることを訴求できている。しかしこの今現状で終わるのではなく、これから2年3年経った時の彼ら彼女たちを追いかけてみるのも、今までにない新たな試みと言えるのではないかと考える。

2) 事業終了後の目指すべき指標

映像コンテンツ・動画は今後、技術革新も重なり益々重宝できるものに成り得ると考えている。しかも映像であれば、少々の日本語力不足は十分補うことが可能であり、海外においても初期広報手段として活用できる。よって今後も映像コンテンツの拡充を図っていく。

他の事業と同様、現状のセッション数や直帰率などを下限として設定。今後も月別ログ解析を確認・把握し、海外からの動向を窺う。使用デバイスなども注視し、以降の事業に役立てる。



k), l) 留学生プレゼンテーション動画 (10種)



m) 専門学校紹介動画

第2章：個別事業の実施内容

(6) 取組Ⅲ 研修・交流事業（全体趣旨）

1. 概要

留学生に手厚いサポートを実現するためには、入口としての日本語教育機関との連携、そして出口である企業との連携が不可欠であり、これまで3カ年で相互理解促進と連携強化を目的として研修・交流事業に取り組んできた。出口では企業にとっては、特定技能の制度も開始され、この機会の有効活用が望まれるもののなかなか軌道にのっていない。また専修学校側も特定技能について積極的に理解を示そうという動きは鈍く、2019年度では「人手不足と人材不足」をテーマにした意見交換・セミナーを行った。こういった取組は今後もあり、そしていま世界中で新型コロナウイルス感染に伴う対応で社会が大きく影響を受けている中では、より一層考えていかなければならないテーマだと言える。

また取組Ⅰにおいて調査した実態（専修学校、留学生、日本語教育機関、企業といったステークホルダーそれぞれの課題や施策、事例等）を、研修・交流事業として相互で理解を深め、連携して解決に向き合うこと重要である。その成果が専修学校の理解促進および、留学生の卒業後における国内企業とのマッチング、定着支援に繋がっていく。まさしく一学校・一企業では解決できない課題に対して、団体組織として活動することで解決に繋がることが期待できる。上記を踏まえ、以下の研修・交流会を実施した。

n) 「日本語教育機関進学指導担当教員のための合同オンライン進学相談会」

o) 「オンラインによる専修学校教職員向け研修会」

p) 「企業向け「外国人留学生採用企業交流会オンラインセミナー」

(7) 取組Ⅲ研修・交流事業① 日本語教育機関と研修交流会

1. 概要

専門学校に入学してくる留学生の多くは、国内の日本語教育機関を経由して入学してきているので、日本語教育機関と連携を強化することは大変重要である。これまでの事業では、専門学校の職業教育を理解していただくことと、近年増加している非漢字圏留学生の日本語教育の難しさをどう克服するかというテーマに焦点を当てて、研修と交流会を実施してきた。また大専各では、独自事業として「出前授業」という取り組みも実施し、日本語教育機関に在籍する留学生に、専門学校での学びや進路などを直接PRしてきた。

そして現在、新型コロナウイルス感染に伴う対応で教育機関が大きく影響を受けている中で、専門学校としては、専門学校の職業教育や手厚い留学生サポートへの理解を促進することはもちろん、取組1 実態把握事業における調査結果を以て教育機関に生じている新たな課題を相互に共有し、連携して解決に向き合っていく場をつくっていく必要があると考えた。

2. 具体的活動

1) 内容

n) 「日本語教育機関進学指導担当教員のための合同オンライン進学相談会」

方法については、新型コロナウイルス感染予防対策に十分配慮し、リモートオンライン会議化（サイバーセミナー）が可能な前提で実施する。サイバーセミナーとして開催することで、海外現地の日本語教育機関の参加も可能となるため交流の幅が広がる。オンライン申込およびアンケートの仕組みを構築、ZoomおよびYouTubeを活用したライブ配信等も企画し、対象者が参加し易い環境を整備する。

第2章：個別事業の実施内容

2) 具体策

「日本語教育機関進学指導担当教員のための合同オンライン進学相談会」

開催日：2020年10月16日（金）13:00～17:15

実施目的：「日本語教育機関進学指導対象者向け、専門学校次年度入試情報の共有の場」として開催

実施内容：

- ・Zoomを用いて日本語教育機関進学指導者と専門学校入試担当者を繋げる形式
- ・有料化するためのパイロット事業として位置付ける 参加対象をワーキング校16校での実証実験として実施。

参加校：

①専門学校（留学生委員ワーキング校）15校

エール学園／大阪総合デザイン専門学校／清風情報工科学院／日本コンピュータ専門学校／日本理工情報専門学校／日本メディカル福祉専門学校／大阪バイオメディカル専門学校／大阪YMCA国際専門学校／上田安子服飾専門学校／森ノ宮医療学園ランゲージスクール／修成建設専門学校／大阪調理製菓専門学校／E C C コンピュータ専門学校／E C C 国際外語専門学校／大阪工業技術専門学校

②日本語教育機関：13校22名申込、13校21名参加

長崎医療こども専門学校／新世界語学院／赤門会日本語学校／神戸住吉国際日本語学校／大阪文化国際学校／大阪バイオメディカル専門学校／大阪国際アカデミー／大原学園／学校法人ユニタス日本語学校（2名）／ユニタス日本語学校 甲府校／ホツマインターナショナルスクール大阪校／関西国際教育学院／MANABI外語学院（3名）

【告知展開】

- ・9/30AM 案内メール配信
- ・近畿圏の日本語学校代表アドレス132件／
アクセスネクステージサービス登録教職員アドレス 全874件
- ・10/1AM 案内メール配信 全国の日本語学校代表アドレス774件
- ・10/5 案内書面の発送 近畿圏の日本語学校154校
- ・10/12AM リマインド案内メール配信 同上



第2章：個別事業の実施内容

3. KPI（成果指標又は重要業績指標）の達成状況

1) KPIの設定

項目	考え方
日本語教員の参加者数	興味・関心を図るうえでの、目標動員数を設定する
専門学校教育の理解度	イベント参加者にむけてアンケートを実施し、集計する

2) KPIの計測・評価

<2020年度の事業成果>

項目	2020年度 KPI	2020年 実績	達成可否		c f : 2019実績	結果
日本語教育機関教職員の参加者数	50人以上	21人	×		53人	-32人
専門学校教育の理解度	90%以上	92.3%	○		81.8%	+10.5%

大学の定員厳格化や新しい在留資格など、従前の課題に加え、コロナ禍に係る新たな課題を抱える日本語教育機関および専門学校にとって共有・解決すべき事柄が多くある今だからこそ必要な機会である。

<3か年の事業成果>

	2018年度		2019年度		2020年度
項目	実績	推移	実績	推移	実績
日本語教育機関教職員の参加者数	36人	↗	53人	↘	21人
参加者の満足度、理解度・次回参加意向	100%	↘	81.8%	↗	100.0%

専門学校と日本語教育機関との交流の促進と連携の強化を図ることを目的とし事業に取り組んだが、この3年間という期間でも、留学生を取り巻く進学状況や社会状況は目まぐるしい変化を遂げている。そのような進学事情の変化や専門学校と日本語教育機関との連携の醸成を踏まえながら、毎セミナーの目的や内容を変更し実施をしてきた。KPIから成果を検討した場合、最終年度において満足度（＝理解度）は90%以上という目標を達成できなかったが年々参加人数が増加しており、初年度から比較をすると最終年度は3倍となったことは評価できる点である。

第2章：個別事業の実施内容

4.本取組みの成果と新たに顕在化した課題、事業終了後の目指すべき指標

1) 本取組の成果と新たに顕在化した課題

昨年度実施した進学相談会は対面で行ったが、今年はコロナの影響によりオンラインで実施した。昨年にはなかった成果としては、関西以外の日本語学校の参加により、大阪の専門学校と面識ができた点である。この取組を継続することにより、より交流が深まり、関西以外の日本語学校生からの専門学校の入学者も見込めるようになる。日本語学校の学生の進路は、進路指導の先生の指導内容に大きく影響されるので、進路指導担当の教員とのつながりは、非常に重要と考える。他社が行う同様の進学相談会も、今年からはオンラインが一般的になっていることから、次年度以降もオンラインでの開催が良いのではないかと考える。

顕在化した課題としては、開催時期である。開催時期をもっと早く、可能なら夏休み前に行えば、日本語学校側の参加校をもっと集められたかもしれない。ただし、今年は、4月から入国拒否制度が実施され、案内の時点では、どの日本語学校も4月からの学生が入って来ておらず、様々な予定が組みにくかったという事情もあるので、今年度はいたしかたない部分もある。また、今回は、原則教員のための参加ではあったが、教員同席のもと、学生も参加できることを案内当初にできていたら、日本語学校側も進路指導の一貫として、当相談会を取り入れられたのではないかと考える。

2) 事業終了後の目指すべき指標

幅広い分野の専門学校を集めること。日本語学校の参加校数を上げること。専門学校、日本語学校の参加数は今回を下限として次回以降動員をはかる。

またオンライン実施という開催形態を活かし、日本語教育機関との交流会とは異なるが、海外の留学生センターに向けてのセミナー、海外の学生への学校説明会など直接的な現地とのつながりも今後視野に入れていきたい。

第2章：個別事業の実施内容

（8）取組Ⅲ研修・交流事業② 専修学校教職員による外国人留学生教育研修会

1. 概要

もともと本プロジェクトは、「留学生の入口から出口までのトータルサポート」に重きをおいており、出口である就職に対して、きめ細かなサポートは必要不可欠である。2019年度は『留学生の就職』をテーマとし、研修会を通して、N2レベルの日本語⇒専門科目の理解⇒就職といった流れの中で、専門教育に必要な日本語をどのように伸ばしていくかといった観点もおさえつつ、日本式の就職活動、企業が求める日本語力などを専門学校教職員が共通認識を持って理解したうえで、留学生にとっても、企業にとってもよい就職となるように、指導していく力を養うことを目標とした。

本年度も「留学生の入口から出口までのトータルサポート」を重視し、留学生の在籍管理や国内企業とのマッチングおよび定着支援をテーマとし、併せてコロナ禍において浮き彫りとなった留学生支援における課題に対して解決策およびノウハウを得ることを目的として取り組む。

2. 具体的活動

1) 内容・具体策

開催名：

専門学校教職員向けオンラインセミナー（第一回）

o) 「今こそ考える留学生支援 -コロナ禍における専門学校のチャレンジ（就職サポート編） -」

開催日：2020年11月18日（水） / 15：00～16：00 ※15分程度延長

実施目的：「専門学校間の情報共有・ノウハウ共有・勉強会

実施内容：

時 間	プログラム
14:45	Zoomミーティングルーム 参加者承認 司会：大阪YWCA専門学校 中山 羊奈/ファシリテーター：ECC国際外語専門学校 白石 一幸
15:00	<挨拶> (一社)大阪府専修学校各種学校連合会 留学生委員会委員長 山下 裕貴
15:05	<コロナ禍における就職サポート事例> ECC国際外語専門学校 留学生課程進路指導課責任者 杉田典彦 エール学園 キャリア支援室室長 西村 康司 修成建設専門学校 進路係係長 上杉 敬史
15:50	<質疑応答>
16:00	終了

動員結果：

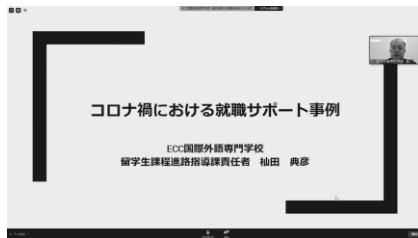
視聴者数：119名 ※パネリストおよび運営9名除く（予約者数：151名）

平均視聴時間：74.9分

予約者数151名（※重複は同機関から複数名参加あり）

<内訳：大阪府41名・大阪以外の学校からの参加110名>

第2章：個別事業の実施内容



（質問一覧（Zoom内で受けた質問一覧））

- ・日本語レベルの低い学生（N2が取得できないレベル）に対して、特定技能の案内はしているのでしょうか？
- ・資料の確認ができていませんが、ないですか？
- ・今期、卒業時に未内定の留学生が複数出ると思われますが、特定活動（就職）への切り替えの有無、対象はどうお考えですか？
- ・就職管理システムや学生が利用できるポータルサービスなどは導入されていますか？
- ・新規求人開拓の方法について、具体的に教えてください。
- ・アルバイト時間オーバーの疑惑のある学生の就職斡旋はどうしていますか？
- ・インターンシップ+アルバイトは、「資格外活動」の週28hに資格外活動に含まれますか？
- ・エール学園 西村様に質問があります。就労ビザ申請は司法書士委託されていますか？
- ・就労ビザ申請は司法書士委託されていますか？
- ・委託されている場合費用はどのように支払いますか？
- ・インターンシップですが、有給のインターンシップですか？
- ・有給なら、週28時間の規定は、どのようにクリアされていますか？
- ・また、その際は、ビザは特定活動に切り替えはされていますか？
- ・杉田様のお話で、キャリア支援のメンタルの部分で「定期的な就職個別面談」があったかと思います。面談者は、キャリアセンタ・一職員の他に、担任などもされますか？ また、面談のやりかたを教えてくださいませんか？（授業としてなのか、希望者予約制なのか等）
- ・他校での事例ですが、ホテルで内定をいただいた場合でもそのホテルがインバウンドの実績がないことから、『通訳需要がない』とのことでビザ申請の際に入管でノッキングして行政書士の先生をお願いしてやっと留学ビザから変更がなかったというケースがありました。現在コロナ禍でまさに国内需要が中心かと思いますが、その辺りの問題はどのようにクリアされていらっしゃるかお伺いできれば幸いです。
- ・学生や企業によってことなるかと思いますが、どのくらいの期間、インターンシップに参加しますか？
- ・修成建設専門学校の上杉先生に質問ですが、技術職となると日本人学生と留学生とで、同じ企業への応募となるとどうしても日本人の採用に偏る、もしくは日本人学生と同等の選定基準になることもあるかと思います。
- ・その際の、留学生の積極採用に向けた企業へのアピールはどのようにしておりますでしょうか？
- ・今回のコロナ特例措置により、推薦できないような留学生もやりたいと権利を主張してくるようなことがあった場合はどうされるご予定でしょうか？

第2章：個別事業の実施内容

3. KPI（成果指標又は重要業績指標）の達成状況

1) KPIの設定

<KPIの設定について>

項目	考え方
専門学校教職員の参加者数	教授意識を図るうえでの、目標動員数を設定する
参加者の満足度	研修会の充実した内容を図るうえで、アンケートより集計する

2) KPIの計測・評価

<2020年度 KPI>

項目	2020年度 KPI	2020年度 実績	達成可否		c f : 2019実績	結果
専門学校教職員の参加者数	50人	119人	○		42人	+77人
参加者の満足度	90%以上	94.8%	○		95.3%	△0.5%

<3か年の事業成果>

	2018年度	推移	2019年度	推移	2020年度
項目	実績		実績		実績
専修学校教員の参加者数	60人	↘	42人	↗	119人
参加者の満足度	94%	↗	95.3%	↘	94.8%

先の3か年の総括として、「留学生の入口から出口までのトータルサポート」という本プロジェクトの重点項目に沿い、1年目は『やさしいにほんご』を、3年目は「就職につながるアプローチ」をテーマとして、研修会を実施した。『やさしいにほんご』は専門学校が留学生を受入れる際の心構えとして、スキルとして必要なことである。担当者一人ひとりがその重要性を認識し、各校の受入れ体制を整えるきっかけの一つとなったのではと考える。また、この取組みが学内だけにとどまらず、専門学校のある地域のグローバル化対応にも役立つことにつながることも期待される。留学生の「就職」に関しては、専門学校として大きな課題であり、日本語学校も含めて高い関心があることが改めて感じられた。ミスマッチを防ぎ、就職する留学生にとっても採用する企業にとっても満足する結果となるよう、各学校の取組みを共有し連携していく仕組みづくりの第1歩となったと考える。

4. 本取組みの成果と新たに顕在化した課題、事業終了後の目指すべき指標

1) 本取組の成果と新たに顕在化した課題

本セミナーの成果は、まず119名の参加があり、その半数以上が大阪府外からであったことがある。コロナ禍において密を避けるために昨年のような会場での実施を断念し次善策としてオンラインでの実施に至ったわけであるが、奇しくもそのプラスの効果を体現することになった。

新たに顕在化した問題は、まずは特定技能ビザの取り扱いについてである。今回の発表ではECC国際外語専門学校とエール学園でその違いが顕著に現れた。前者はあくまでも技能・人文・国際活動ビザが取得できる就職を対象としているのに対し後者は特定技能ビザでの就職指導も対象としている。日本の人手不足の改善、優秀な人材の確保、国際貢献、企業の国際展開などの観点から留学生の就職はどうあるべきかを今後議論する上での興味深い問題提起がなされたと捉えている。

(前頁からのつづき)

専門学校は本来、社会が求める専門的職業に人材を輩出することが目的であるが、グローバル化が進み、かつ人手不足が続く日本社会において、外国人が担う専門的職業がどうあるべきかと、いう点を掘り下げて考察し特定技能ビザへの対応を議論していくことが肝要である。

次に、いわゆる就労ビザ(技術・人文・国際業務)についてもいくつか質問が出た。同ビザの申請について行政書士に委託されているのかといった質問が出されたが、そこから審査の基準がわかりにくいことに加えて書類作成に不慣れである学校スタッフや企業の採用担当者の困惑が伺える。学校、企業の事例発表にと止まらず、行政書士など専門家も交えた研修の必要性も感じるようになった。

就職活動に関しては特にインターンシップへの関心も高かった。日本の就職活動の一環として事実上の会社説明会となっている「インターンシップ」ではなく、3校とも一定期間に渡る就業体験をする「インターンシップ」を実施しているが、その目的、実施方法、就職への道筋・効果といったものは三者三様であった。さらなる情報提供と意見交換が必要であろう。

2) 事業終了後の目指すべき指標

今回テーマとして「就職」については以上を踏まえ今後の取り組みを検討していくことになるが、元々の計画段階から、オンラインであることを活用して毎回取り上げるテーマや実施方法については柔軟性をもたせる意図もあった。研修会を進める中で浮かび上がった問題点を適時テーマとした内容作りをしていきたいと考えている。その中で、今回のテーマ選定の枠組みとなったコロナ禍については、今だ収束の見通しが立たないだけに、それに対する取り組み(過去、未来)と同時にそこから得られた新しいプラス効果も今後の焦点になっていく可能性がある。

参加人数は今回を下限として次回以降動員を図る。オンラインを活かしさらに広域から参加いただけるよう努める。

第2章：個別事業の実施内容

（9）取組Ⅲ研修・交流事業③ 外国人留学生採用企業との交流会

1. 概要

留学生の入口から出口までをしっかりと支援するためには、専修学校と留学生採用企業との関係性強化は必要不可欠である。そうした意味で、大専各では毎年、大阪商工会議所との共催で留学生を採用している（検討している）企業を集めて、専門学校教職員との留学生採用企業交流会を開催している。プログラム内容もその時折を考慮して工夫を図っており、高い満足度と参加者数を記録している。〔参照図-7〕 2019年度においては、新しい就労ビザ（特定技能）などについても話題提供できる企業交流会を開催したが、KPIに対して参加者数が未達成、満足度が達成という課題の残る結果だった。この背景には、同日に企業向けの留学生採用交流会が開催されるなど時節的な要因もあるが、新しい就労ビザ（特定技能）に対する思いが、企業側・専門学校側で相反していたことが挙げられる。特定技能についてはより深い議論が必要と言える。例年行っている留学生OBを交えたトークセッションは専修学校、企業とも高いアンケート結果となっており、企業にとっては留学生の高い日本語力や強い就職意欲などを直接理解してもらうよい機会となった。

周知のとおり新型コロナウイルス感染症の影響で、多くの業種で採用活動は縮小傾向にあり、国内留学生の出口支援として企業との関係性をより強化していく必要がある。このような状況だからこそ、専門学校の職業教育は高水準であり、学んでいる留学生の質が高いということをPRできる場が必要だと考える。よって、令和2年度も企業交流会を開催し、本事業の目的である「留学生の入口から出口まで」をトータルに支援できるように努めた。

〔参照図-7〕大専各主催 企業交流会 参加者数推移

	2017年度	2018年度	2019年度
専門学校	68	86	82
企業	73	89	69
行政・その他など	10	21	7
合計	151人	196人	158人

2. 具体的活動

1) 内容・具体策

留学生を採用している（検討している）企業、行政、専門学校教職員、専門学校で学ぶ留学生を対象とした企業交流会を開催する。

開催名：企業専修学校の交流会

p) 外国人留学生採用企業交流会オンラインセミナー

～企業と専門学校教職員、専門学校在籍の外国人留学生によるオンライン交流会～

開催日：2020年12月3日（木）16：00～17：20

実施目的：留学生の入口から出口までをしっかりと支援するために専修学校と留学生採用企業との関係性強化を目的とする。

時 間	実施内容プログラム
15:45 16:00～	Zoomミーティングルーム 参加者承認 司会：近畿社会福祉専門学校 岡田 智幸/セミナーサポート：エール学園 萩原 大作、西村 康司 <挨拶>（一社）大阪府専修学校各種学校連合会 副理事長 富永 桂多
16:00～16:05	<文部科学省委託事業 実態把握アンケート調査結果報告> ・留学生、採用企業、専修学校対象アンケート結果報告
16:05～16:15 16:20～16:25 16:25～17:05	（一社）大阪府専修学校各種学校連合会 留学生委員会委員長 山下 裕貴 <留学生プレゼンテーション 参加学生の紹介> ・動画にてプレゼンテーション参加学生を紹介 <企業・留学生交流会> ・ブレイクアウトルームに移動後、オンライン交流会を実施 説明、移動（5分） 交流（30分） 講評（5分）
17:05～17:10	<閉会の挨拶> 大阪商工会議所 人材開発部長 大阪企業家ミュージアム 事務局長 興津 厚志

第2章：個別事業の実施内容

動員結果：

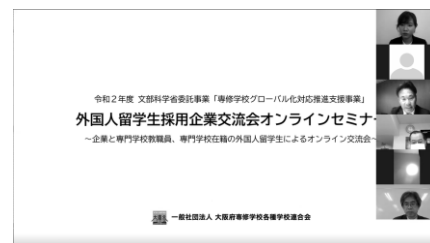
参加者数：85名 ※運営3名、大専各事務局3名除く

予約者数：102名（企業団体36名 学校37名 留学生29名）

平均視聴時間：71.9分

3.K P I（成果指標又は重要業績指標）の達成状況

1) KPIの設定



項目	考え方
交流会の参加者数	興味・関心を図るうえでの、目標動員数を設定する
参加者の満足度	交流会の内容を図るうえで、アンケートより集計する

2) KPIの計測・評価

<2020年度 KPI>

項目	2020年度KPI	2020年実績	達成可否		c f：2019年実績	結果
交流会の参加者数	150人	85人	×		158人	-73人
参加者の満足度	70%以上	93.5%	○		78.4%	+15.1%

<3か年の事業成果>

	2018年度		2019年度		2020年度
項目	実績	推移	実績	推移	実績
交流会の参加者数	196人	↘	158人	↘	85人
参加者の満足度	93.6%	↘	78.4%	↗	93.5%

<交流会の参加者人数 内訳推移>

	2018年度	2019年度	2020年度
専門学校	86人	82人	37人（予約）
企業	89人	69人	36人（予約）
行政・その他等	21人	7人	0人
留学生	—	—	29人
合計	196人	158人	予約102人 （参加85）

4.本取組みの成果と新たに顕在化した課題、事業終了後の目指すべき指標

1) 本取組みの成果と新たに顕在化した課題

専門学校で学ぶ留学生のモチベーションの高さ等を参加者に実感していただけた。

留学生の中には母国で大学を卒業し3か国語以上堪能等、日本の専門学校に在籍する留学生の質の高さ等、インパクトを与えることができ、企業の採用意欲につながり、熱心に交流してくれる留学生のおかげで参加者は元気や勇気もいただけた。

初のリモート開催で、申し込んでくださった方にURL到着確認、ブレイクアウトルームへの移動等、操作上の工夫や、ブレイクアウトルーム交流開始時の人数確認等による再振り分け、ファシリテーターも経験値により円滑な運営が可能となる。

2) 事業終了後の目指すべき指標

専門学校への新規企業からの求人、インターンシップ等の増加を目標として、交流会内でのマッチング等の仕掛けを検討する。参加人数は今回を下限として次回以降動員を図る。

ブレイクアウトルームやWi-Fi環境などオンラインでの開催等をさらにスムーズに行えるよう、ブラッシュアップを行う。

第2章：個別事業の実施内容

(10) その他報告事項

1. 概要

本事業は、直近3か年の専修学校グローバル化対応推進支援事業の延長戦的扱いという前提から、「コロナ禍」を意識した考えや取組を取り入れ発展させた。現況に応じた今だからこそ出来る事業を実施し、本事業を通して、入口から出口までの留学生に対する広報・支援を大専各という組織で行い、成果として日本語教育機関、企業、行政との連携を強固にする他地域の先行事例として先導していく。これらをモデルケースとして他地域にも発信するためには、取組と成果をアウトプットした成果報告書と成果報告会の開催が必要である。

取組みⅠ～Ⅲまでの工程・成果を報告書にとりまとめ、報告会は前年度と同様にTCE財団が行う他地域が集まる報告会（オンライン）と共催で行うことを計画・実施した。

q) 成果報告書の作成

r) 成果報告会の開催

s) 成果報告動画（文部科学省提出用）

2. 具体的活動

q) 成果報告書の作成

1) 内容

取組ⅠからⅢの事業結果を掲載、とりまとめて成果報告書として印刷、事業周知を行う。

2) 仕様

・A4 /印刷部数：290部

3) 配布・周知

関係各所に送付し、事業周知を図る。

発送先：大専各会員校170、全国専各連事務局他48、大専各会合等配布60、その他12

r) 成果報告会の開催

1) 日程：2021年1月25日 オンライン開催

当初、コロナ禍により、TEC財団主催でオンライン報告会を実施する予定であったが、報告会の次第変更が生じたので、大専各としては報告用動画をもって代替とした。

2) 内容

他専各団体には、成果報告書の発送と報告用動画の共有を行う。

s) 成果報告動画（文部科学省提出用）

報告用動画（＝令和2年度専修学校委託事業成果PR動画）の作成

(11) 大専各独自の取組み

1. 大阪観光局「留学生コンソーシアム大阪」への参加

大阪では、2年ほど前から大阪観光局が事務局となり、行政、経済団体、大学、日本語教育機関、専門学校、企業といった様々な立場の人が定期的に集まり、留学生支援について協議する場ができた（＝留学生コンソーシアム大阪）。まさしくオール大阪で留学生の入口から出口までを支援することで、さらなる留学生誘致にもつながることを目的としている。大専各留学生委員会は、この会に発足から積極的に参加し、情報発信と情報共有に役立てている。令和3年2月度の定例会では、専門学校で学ぶ留学生について、プレゼンテーションを行う予定である。

第2章：個別事業の実施内容 (12)取組Ⅲ①～③参加者アンケート調査結果（抜粋）

n)日本語教育機関 進路指導担当教員のための合同オンライン進学相談会 4-1

1) アンケート結果【対象：専門学校（13件）参加者】

専門学校の参加者アンケートは回答数（13件）、説明会の実施回数は最大で6回実施枠のところ、3回と1回と回答された学校がそれぞれ6件と記載。

日本語学校からの質問内容は、「教育内容・コース内容」11件、「学費」10件、「就職」8件以下は下記の通りです。

進学相談会の満足度は、「大変有意義だった」と「有意義だった」を合わせて92.3%。

進学相談会の感想は、「遠方で今までお会いできなかった日本語学校とお顔を合わせて会話できてよかった」、「資料を共有できるので、説明しやすかった」「1回30分の場合、対応できるのは3校が限界」「もう少し参加者が多いと良かった」「事前パンフの配布があったほうがよかった」などで、その他の感想については、以下のアンケートの抜粋を御覧ください。

Q1. 御校の専門学校名（順不同）

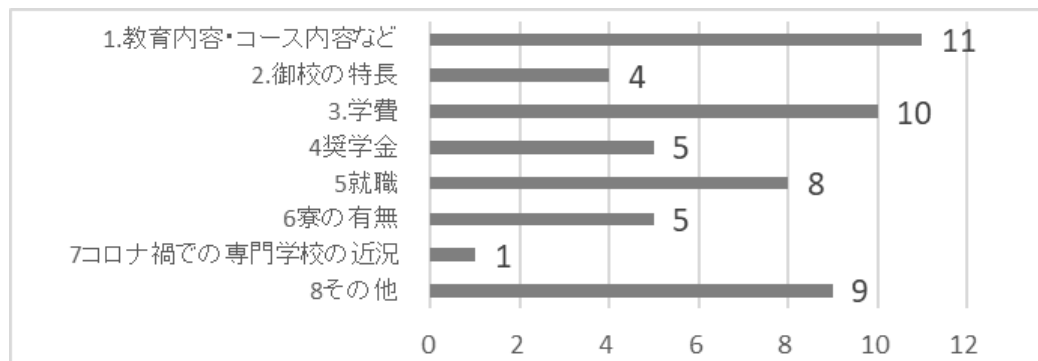
学校法人山口学園ECCコンピュータ専門学校/ECC国際外語専門学校/エール学園/大阪工業技術専門学校/大阪調理製菓専門学校/大阪総合デザイン専門学校/大阪バイオメディカル専門学校/大阪YMCA国際専門学校 語学ビジネス専門課程/修成建設専門学校清風情報工科学院
日本コンピュータ専門学校/日本理工情報専門学校/森ノ宮医療学園ランゲージスクール

Q2. 御校の進学相談会の実施回数と各回の日本語学校様の教員参加数をお聞かせください。

実施件数	1回 13:00-13:30	2回 13:45-14:15	3回 14:30-15:00	4回 15:15-15:45	5回 16:00-16:30	6回 16:45-17:15
件数	6	3	6	5	4	4

日本語学校教員数	1名	2名	3名	4名
件数	25	6	3	1

Q3. 日本語学校からどのような質問がございましたか？



Q4. 1校30分の時間設定について

	計	ちょうどよかった	長かった	短かった
実施件数	13	10	0	3
%		77.0	0.0	23.1

Q5. 実施回数（6回）について

	計	ちょうどよい回数だった	回数が多かった	回数が少なかった
実施件数	13	7	5	1
%		53.8	38.5	7.7

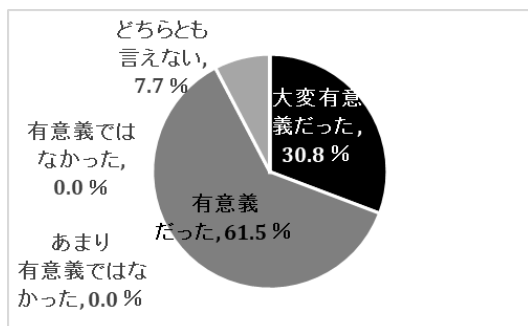
n)日本語教育機関 進路指導担当教員のための合同オンライン進学相談会 4-2

2) アンケート結果【対象：専門学校(13件) 参加者】

Q6-1) 今回の合同オンライン進学相談会について

1) アンケート結果【対象：専門学校(13件) 参加者】 2-1 (抜粋)

	計	大変有意義だった	有意義だった	どちらとも言えない	あまり有意義ではなかった	有意義ではなかった
数	13	4	8	1	0	0
%		30.8	61.5	7.7	0.0	0.0



Q6-2) 今後、本日と同様の進学相談会があれば参加したいと思いますか。

	計	はい	いいえ
数	13	13	0
%		100.0	0.0

Q6-3) 本日の進学相談会に関するご意見・ご要望等をお聞かせください。

《実施時期、時間など》

- ・ターム間が15分で設定されていますが、10分ぐらいでよかった気がします。30分あれば説明及び質疑応答が十分にできると思います。
- ・間隔を15分取ることで、待ち時間が長く感じられました。
- ・10月よりも少し早い段階で、このような機会があればさらに良い場になったのではないかと思います。

《その他》

- ・定期的実施いただければよいと思いました。
- ・参加校が少ないように感じた。

Q6-3) 本日の進学相談会に関するご意見・ご要望等をお聞かせください。

《オンライン開催について》

- ・オンラインで30分という時間の中では、一度にご対応できるのは3校程度が限度だと感じました。
- ・遠方の日本語学校様と顔を見てお話しする機会は減多にないので、大変有意義でした。進学後の住居について心配されている方が想像より多くいらっしゃるということは新たな発見となりました。

《実施方法等》

- ・本校は、1対1で話がじっくりできる機会だけだったので満足していますが、1対複数だとあまり細かな話ができないのではと、心配になりました。
- ・参加する先生方への事前パンフレット配布などもあっていいかと思いました。
- ・予約された学校様には事前に資料を送らせていただいたほうが、話がしやすいかなと思いました。形式を明確にした。今回は「学校プレゼン→質疑応答」の形だった。
- ・参加頂いた日本語学校先生の聞きたい事が何かを先に尋ね、それに答える形で進めたため、お互いに有意義だったと思っています。

Q6-4) Zoom開催の良かった点、改善したほうが良い点などをお聞かせください。

《評価点》

- ・遠方の日本語学校の先生に説明を直接行うことが出来ました。
- ・次回実施していただければ、もっと参加校を増やしてほしいです。
- ・普段、あまり接することのない関東圏の先生と話す機会を持つことができ、とても有意義だった。
- ・訪問するためにかける時間が削減できる上、日本語学校の先生方と直接話せる機会を持てたことが良かったです。
- ・使い慣れているZoomだったので設定もしやすく画面共有などもできて良かった。
- ・回線も途切れることなく、明瞭でした。
- ・学校から開催をすることができるので、余った時間を有効活用できる。
- ・画面で資料を共有できるので説明がしやすい。

《改善点、課題など》

- ・今回は1:1の対応になりましたので、それほど不都合は感じられず、説明もしっかりできた。1:複数 での対応になると、Zoomでは難しい点が出てくる。
- ・ネット環境によっては接続が不安定になり、十分お伝えできたかやや不安が残る。
- ・遅れて入って来られた学校様に対して十分にフォローができなかった。
- ・ZoomのミーティングIDは自動生成より、各個別アカウントの固定IDの方が良かった。
- ・参加校、参加する先生が多ければ。
- ・今回は教員のみ参加でしたが、ひろく留学生とコミュニケーションがとれるとよいと感じた。その際の語学力については、若干不安だが、双方にとって有益。
- ・担当者のお名前読み方の事前共有を希望。
- ・質問事項が多いと30分では説明できず、実施時間もしくは実施校数の再検討を希望。

n)日本語教育機関 進路指導担当教員のための合同オンライン進学相談会 4-3

3) アンケート結果【対象：日本語学校(10件) 参加者】

日本語学校の参加者アンケートは回答数(10件)。説明会の参加校数は、1校参加が3件、2校、6校参加がそれぞれ2件という結果でした。

進学相談会の満足度は、「大変有意義だった」と「有意義だった」を合わせて100.0%で今後もこのような相談会があれば参加したいかという問いに100.0%が「はい」と回答。

進学相談会の感想として、「オンライン開催により遠方から参加することができてよかった」、「大阪に進学したいという学生に対してこれからは案内できる」といった内容のご意見がありました。「校内展示作品をライブで紹介するなどオンラインならではの工夫」をしていたことによる評価や「コロナ禍でのオンライン開催に感謝している」とのご意見もありました。

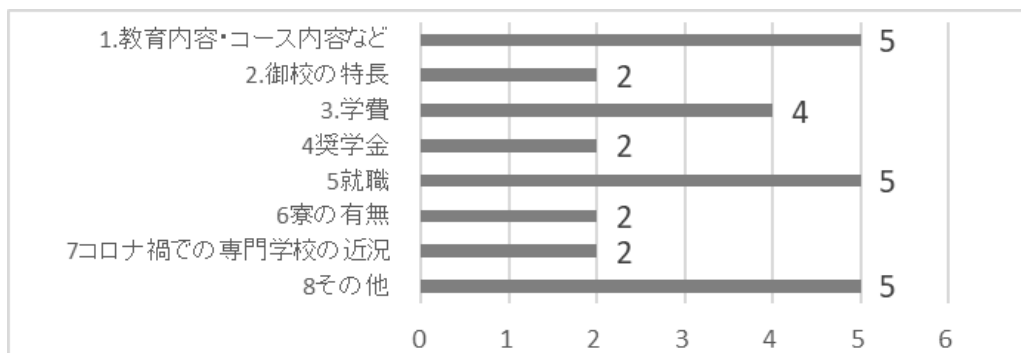
Q1. 何校の専門学校のオンライン進学相談会に参加されましたか？

実施件数	計	1校	2校	3校	4校	5校	6校
件数	10	3	2	1	1	1	2
%		30.0	20.0	10.0	10.0	10.0	20.0

Q2. 御校の留学生は、オンライン進学相談会に同席しましたか？

留学生参加を同席させた日本語学校はなし

Q3. 御校から専門学校へどのような質問をされましたか？



Q4-1) 今回の進学相談会参加についてのご意見・ご感想をお聞かせください。

	計	大変有意義だった	有意義だった	どちらとも言えない	あまり有意義ではなかった	有意義ではなかった
数	10	4	6	0	0	0
%		40.0	60.0	0.0	0.0	0.0

Q4-3) 「Q7-2」で「①はい」と回答された方へお伺いいたします。今度同様の相談会を実施する場合、ご希望の開催時期を具体的に聞かせください。

1月上旬/6月上旬/6月下旬/
7月中旬/
9月上旬/10月中旬/
7月～10月

- ・早いほうが嬉しいです。
- ・出願が本格的に始まる前の夏頃

Q4-2) 今後、本日と同様の進学相談会があれば参加したいと思いますか。

	計	はい	いいえ
数	9	9	0
%		100.0	0.0

n)日本語教育機関 進路指導担当教員のための合同オンライン進学相談会 4-4

4) アンケート結果【対象：日本語学校(10件) 参加者】

Q4-4) 本日の進学相談会に関するご意見・ご要望等をお聞かせください。

《実施時期・時間等》

- ・今回は人数が少なかったため、30分で十分に時間がありましたが、人数が増えると1校30分は時間が足りない。
- ・就職に関することもお聞きしたかったので、もう少し質問できる時間があればよかった。

《オンライン開催について》

- ・普段なかなか情報収集のできない大阪地区の学校を知ることができて、有意義な時間でした。毎年、親戚や友人がいるから、と大阪を希望する学生が本当に少数ですがおりました。でも自分の知識のなさで学生にあきらめてもっていました。今度からは、学校を少し紹介できます。遠くでも参加できるのはオンライン説明会のいいところですね。
- ・コロナ禍で県を跨いでの移動が懸念されるなか、オンラインでの相談会はとてもありがたかった。

《実施方法等》

- ・1対1なのか、事前に知りたかったです。

《その他》

- ・滞りなく、スムーズに進行してくださり、多くの情報を得ることができました。
- ・参加人数が少なく驚きましたが、ゆっくり質問もでき、個別対応もしていただき、ありがたかったです。
- ・出願要項に書いてある以外のことを聞けると、学生にさらに薦めやすくなりますので、そのような情報がほしいです。
- ・担当の方と直接会って、聞きたいことが聞けて良かった。

Q4-5) Zoom 開催の良かった点、改善したほうが良い点など、ご意見がございましたらお聞かせください。

《評価点》

- ・遠い地域の学校の説明が聞けて良かったと思います。
- ・30分と時間がきまっているので、集中して伺うことができました。
- ・校内展示作品を紹介しながらお話してくださった学校があり、普段日本語学校の教員はあまり上級学校へ伺う機会がないので、新鮮で印象に残りました。
- ・今年度、いろいろな説明会に参加しましたが、複数校参加しての相談会としては一番スムーズでした。自分で予約した時間を選ぶというのはわかりやすくいいと思いました。ホスト側に移動されるのよりいいと思いました。
- ・お蔭様で多くの学校と情報共有の機会を頂き、入試情報などについて貴重なお話を聞くことができ、大変参考になりました。
- ・気軽に参加できたので、良かったです。
- ・資料が見やすかった。
- ・Zoomの立ち上げや画面の切り替え等もスムーズで分かりやすかった。
- ・大阪方面の学校を希望する学生がいるので、Zoomで話せて良かったです。改善点はありません。

《改善点、課題など》

- ・録画は禁止ですとか、肖像権への配慮の面でのご説明等が事前にあるとよいのではと思いました。
- ・自分で予約しておいてなんですが、6校は多かったです。この点、対面のほうが疲れないのでしょね。3、4校だったらなと思いました。

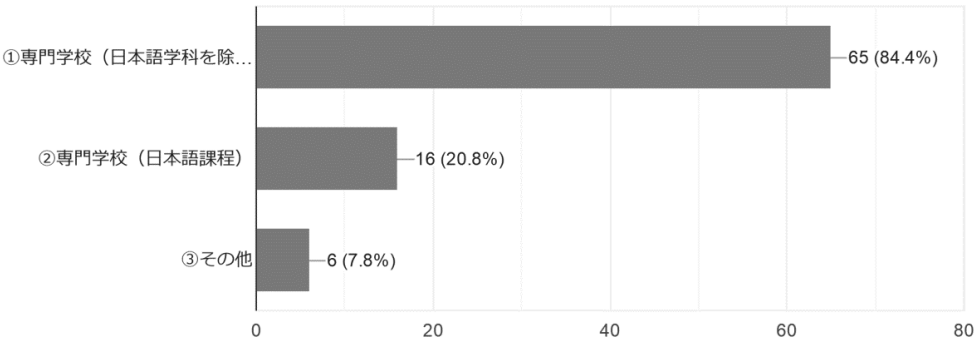
0) 専修学校教職員向けオンラインセミナー 2-1

1) 総数回答数77件

アンケート回答数77件。専門学校65件、専門学校（日本語課程）16件、その他6件。
オンラインセミナーの満足度は「次回以降継続して参加したい」は87%。【コロナ禍における就職サポート事例】は「大変参考になった」と「参考になった」の合計は94.8%。
オンラインセミナーに対する感想は、「いままで他校の取り組みを知らなかったので大変役立った」「具体的な事例や就職指導がよく分かった」などの意見が多くありました。取り上げてほしいテーマとしては「就労ビザ」「特定技能」「留学生の学習指導」「採用企業開拓」などでした。

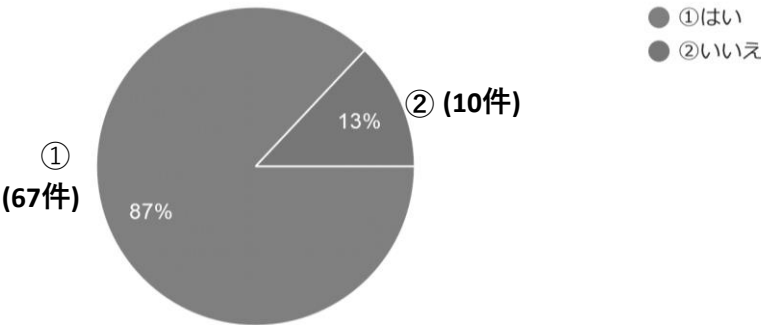
Q1.どの教育機関に所属されていますか？

77件の回答



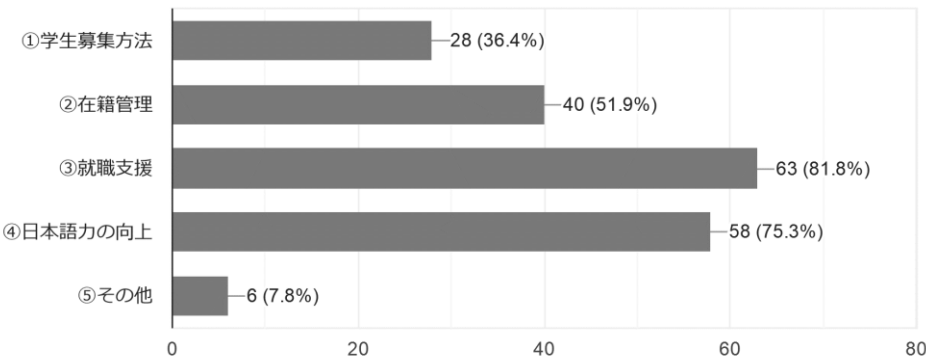
Q2.本セミナーは、今後定期的にシリーズ開催を予定しています。
次回以降、継続して参加したいと思いますか？

77件の回答



Q3-1.「留学生支援」において、課題だと思われる事がありますか？（複数回答可）

77件の回答

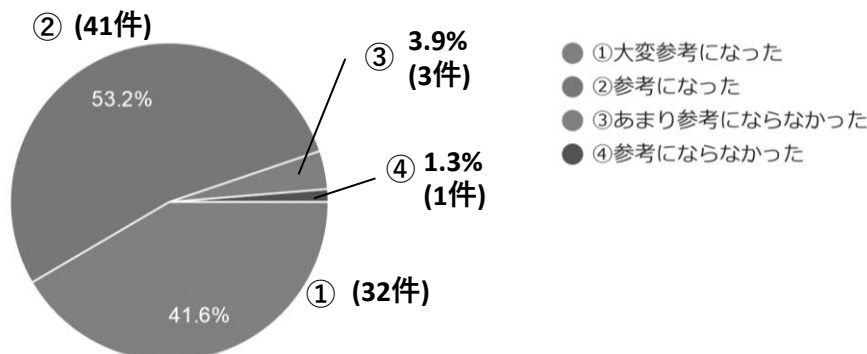


0) 専修学校教職員向けオンラインセミナー 2-1

Q4-1. プログラムについてご感想、ご意見をお聞かせください。

【コロナ禍における就職サポート事例】(77件)

77件の回答



Q4-2. 上記Q3-1で①～④を選ばれた理由をご記入ください。

【特定技能】

- ・ 特定技能ビザの話が聞けたから。
- ・ 特定技能企業推奨の基準に「キャリアパスの有無」という話はためになりました。

【就職関連・留学生就職支援・採用企業開拓】

- ・ 2021年度より留学生受け入れをスタートする為、その後の就職サポートを事前に勉強する事ができて良かったです。
- ・ 具体的な事例や就職に向けての就職指導がよく分かった
- ・ 留学生にとっても関心の高い就職についてのサポート体制を知ることができたから。
- ・ 大阪の就職の状況や企業様とのかかわりについて知ることができたから。
- ・ 他の専門学校の就職率などをみせていただいたことで、就職率に悩んでおりましたが少しは安心できました。また、留学生なので難しいところが多く、日本人よりも動きが遅くなっていたので、就職活動は同じにやった方がいいということも教えていただきました。

【コロナ禍関連・オンラインの活用】

- ・ オンライン面接等の実施でもう少し具体的な内容をお伺いできればと思います。
また、現場の教師の声を聞きたかったです。
- ・ コロナ禍でも業種によっては求人が多いことを知りませんでした。
- ・ コロナ禍での他校の取り組みを知ることができたから。
- ・ オンラインの就職活動の取り組み方など勉強になった。

【他分野・他校との情報共有】

- ・ 他校の取り組みを知ることができ参考になりました。
- ・ 介護福祉科に在籍しています。違う職種の状況を伺ったり、就活状況を聞くことができて学びは多かったです。
- ・ これまで他校の取り組みをほとんど知らなかったので参考になった。
- ・ 今年度の他校の状況を知りたかったので。
- ・ 本校では留学生が今回発表いただいた3校に比べ人数が少なく、対応について違いはあるものの他校での取り組みを聞くことができ今後の対応の参考となりました。
- ・ 就職支援について企業様との連携の必要性が確認できたから。
- ・ 事例を伺うことで、自校の取り組みとの比較が容易で改善点に気づきやすいですし、その気づきも”具体的”な方法論に近づけやすいと感じたからです。
- ・ 色々な分野の方の情報が聞けて非常に有意義でした。

【その他】

- ・ 事例は参考になった。
- ・ 弊社での取り組みに、改善が必要な点が多々見つかりました。
- ・ 各学校の特色、企業の動向が見えたこと。
- ・ 留学生に特化した学科、学校のみを期待していた。
- ・ 活動内容がよく理解できる事例であった。
- ・ 具体的な施策方法をもう少し知りたかったです。
- ・ パワーポイントの資料がわかりやすく見やすかったです。
- ・ インターンシップの取り組み、特定技能の選択。
- ・ 発表者の皆様が率直に具体的にお話くださったので、本校でも実施できることがあるように感じました。
- ・ 就職支援の取り組みや特定技能に対する各校の考え方が参考になりました。
- ・ 神奈川県協会の職員として参加させていただきました。大阪専各の留学生に対する取組みが参考になりました。
- ・ 学校様ごとに学生のみなさんの属性(希望・能力レベルなど)に応じた指導内容をご紹介いただいたこと、また、コロナ禍での内定状況や就職先開拓の具体的な手法をお伺いすることができたことなどから。

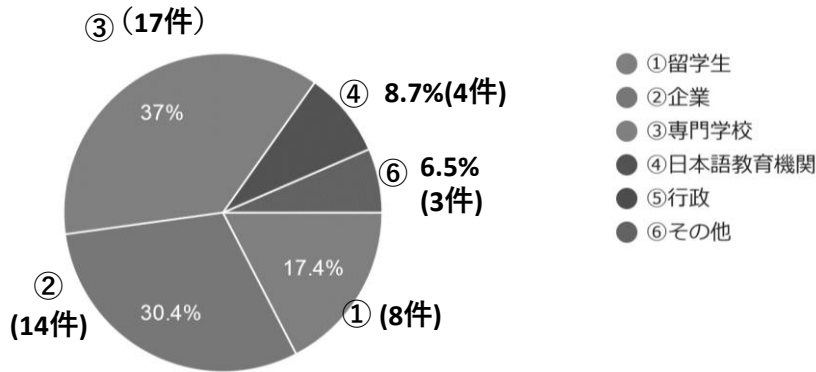
p) 外国人留学生採用企業交流会オンラインセミナー 3-1

1) 総数回答数46件

アンケート回答数は、46件（内訳はQ1に記載）。オンラインセミナーの満足度は「とても有意義だった」と「有意義だった」を合わせて93.5%。
プログラム別では「実態把握アンケート調査結果報告」は93.5%、交流会は89.1%の満足度となった。「留学生のプレゼンテーション動画」は、91.3%が観たと回答。「留学生の生き生きとした表情がとても印象に残りました」「志の高い方ばかりで、一緒に働く日本人が良い影響を受けてもらいたいと感じました」など留学生の理解促進に繋がった。
オンラインセミナーの感想は「学校様・留学生の方との意見交流は非常に勉強になり、有意義なお時間を過ごさせていただきました」や「ブレイクアウトセッションの時間帯が短かった」「オンラインでの実施は非常に難しいと感じましたが、今後の参考にさせていただけるいい機会となりました。」などのご意見がありました。

Q1.「あなたに該当するものを下記よりお選びください。

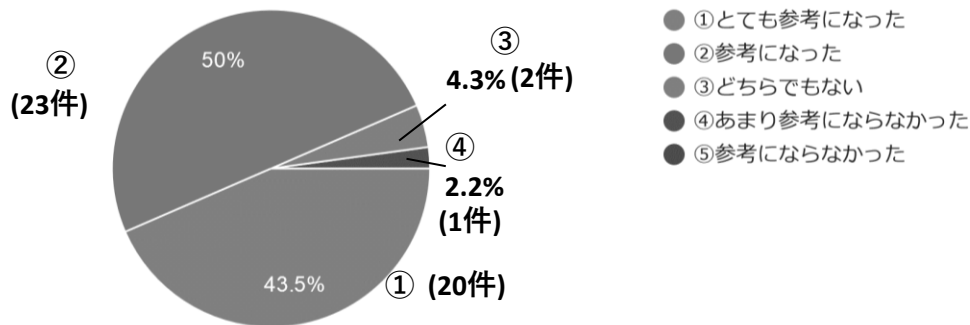
46 件の回答



Q2.それぞれのプログラムについてご感想・ご意見をお聞かせください。

「（1）実態把握アンケート調査結果報告」について

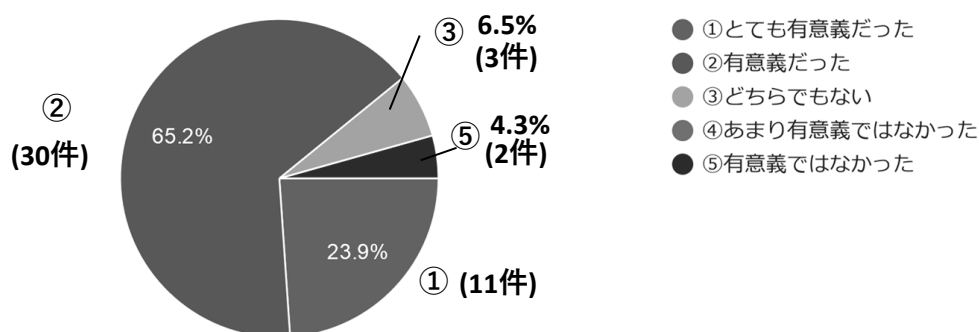
46 件の回答



p) 外国人留学生採用企業交流会オンラインセミナー 3-2

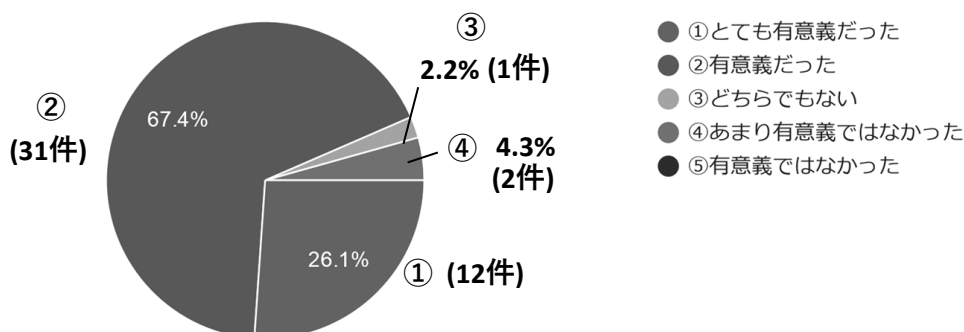
Q3. 「（３）企業・留学生交流会（ブレイクアウトルーム）」
について、十分な情報交換等ができましたか？（46の回答）

46 件の回答



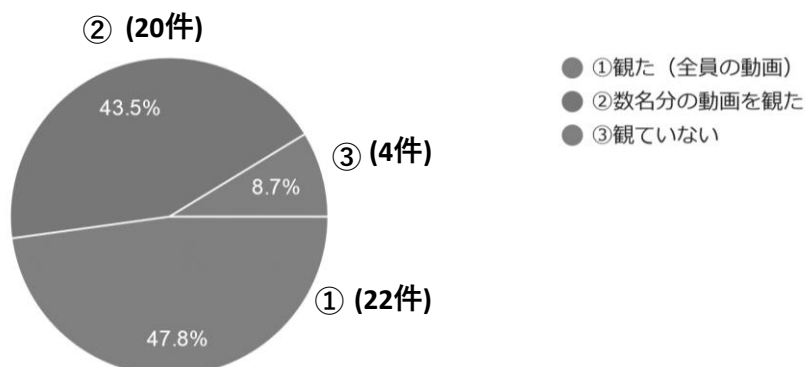
Q4.本交流会全体のご感想・ご意見をお聞かせください。

46 件の回答



Q5-1. 「（２）留学生プレゼンテーション動画」を御覧になりましたか

46 件の回答



p) 外国人留学生採用企業交流会オンラインセミナー 3-3

Q5-2. 「(2) 留学生プレゼンテーション動画」についてご感想・ご意見を具体的にご記入ください。

【発表内容全般】

- ・志の高い方ばかりで、一緒に働く日本人が良い影響を受けてもらいたいと感じました。
- ・留学生の生の声、表情から、より伝わるものがあったと思う。
- ・異国で懸命にがんばっている姿に感動しました。
- ・それぞれ工夫されていて、完成度が高かった。
- ・留学生の生き生きとした表情がとても印象に残りました。
- ・各専門学校で留学生がどのように日々努力しているかよく理解できました。
- ・全員の志の高さが伝わった。
- ・みなさん、語学が堪能です。ただ社会では微かなニュアンスが重要になる場面も多くあるため、さらに多くの社会経験が必要になると思います。
- ・素晴らしかった。
- ・皆さん、明確なキャリアビジョンを持ち頼もしいです。

【留学生のご意見】

- ・これから留学生たち日本でもっと頑張りたいと思います。

【その他】

- ・動画の収録や編集が大変だったと思いますが、どれもよくできていると思います。

Q6.最後に、本交流会全体についてご感想・ご意見・ご要望などを具体的にご記入ください
(開催時期、開催時間、交流会の内容、オンラインの実施方法など)

【ご感想全般】

- ・大変勉強になりました。ありがとうございました。また参加させていただきます。
- ・学校さんとつながりを持ちたいと考えていましたので、瓶井学園さんをご紹介いただき大変嬉しかったです。
- ・学校様・留学生の方との意見交流は非常に勉強になり、有意義なお時間を過ごさせていただきました。
- 企画・運営いただいた皆様方に大変感謝しております。ありがとうございました。
- ・もっとたくさんの分野の会社を参加して欲しいです。
- ・事前に参加予定者が分かれば尚良いかと思います。
- ・もう少し時間長くしてほしいです

【プログラム構成・ブレイクアウトルーム・時間など】

- ・オンラインでの実施は非常に難しいと感じましたが、今後の参考にさせていただけるいい機会となりました。
- ・オンラインでの交流は効率的で有意義なものでした。オンラインの方が参加しやすいと感じました。企業との交流が出来なかったのが、次回は交流できたと思います。
- ・ブレイクアウトルームの横流しの時間がもう少し欲しかった。
- ・ブレイクアウトルーム間の移動が可能とのことでしたが、こちら側での操作不可となっております。
- ・事前のシミュレーションや、参加人数の調整など、運営の方の労力は大変なものがあると思います。お疲れ様でした。実施方法について、関係者の分野と参加者数を絞った方が話の内容が深まると思いました。
- ・ご苦労さまでした。また参加させていただきます
- ・ブレイクアウトセッションの時間帯が短かった気がしましたが、一部屋当たりの人数も多かったと思います。(私の経験上) だいたい4～5人が丁度良いですが、ディスカッションする内容(テーマ)に依存されますので、検討が必要ですね。

(1) 総括

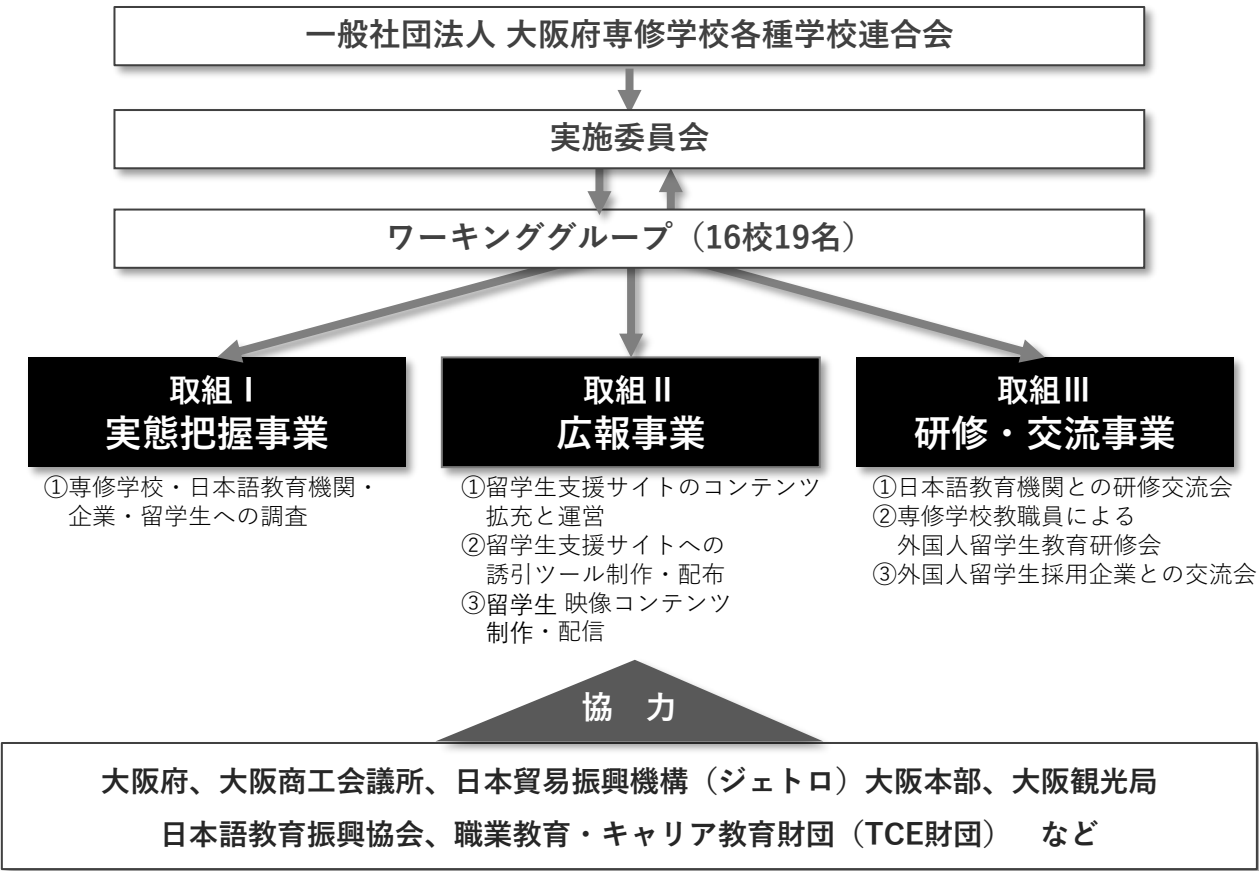
本書の冒頭で述べている通り、大専各 留学生委員会は、2007年の発足から様々な留学生に関わる取組みを行っており、特に留学生の専門学校教育に於いて『入学を考える、学ぶ、卒業後の進路としての就職まで導く』という入口から出口までの体系化に力をいれてきた。そういった中で2017年度・2018年度・2019年度にあたる先の文部科学省委託事業「専修学校グローバル化対応推進支援事業」は、海外から日本へ留学する留学生が急激に増えた時期でもあり、我々専門学校にとって、単に受入れるだけでなく、在籍管理や生活指導、個人差ある日本語力に対応する専門的な教授方法、卒業後の就労企業の確保など、より求められる事項が重要になってきたタイミングでの委託事業だった。しかし2020年度の本委託事業は、世界中で新型コロナウイルス感染拡大により社会全体が大きな影響がうけている中での活動となった。そのためまず最初に実態把握事業として留学生に関わるステークホルダーにアンケート調査を実施した。コロナ禍における状況把握をしたうえで次のステップを図った。そのうえで広報事業、研修・交流事業に取り組み、その活動を通じてコロナ禍においてもできる工夫や発見を得ることが出来た。例えば今まで力を入れてきたWEBサイト「留学生支援サイト」は、情報を広く発信するうえで重要な役割を果たし、新たに手掛けた動画コンテンツとの連携もしっかりできており、今後ますますその活動を通じて発展していけるサイトとしての手ごたえを感じている。

また各種行った研修・交流会もコロナ禍ならではのオンラインという開催形式により、物理的な距離や時間制約の軽減により、今までなかった参加者数の増加や顔ぶれの変化をもたらすことができた。

このようにコロナ禍というネガティブな状況にありながらも、種々様々な取組みを行っていく中でポジティブな成果が獲得できたことは喜ばしい出来事であるが、最たる成果は、『つながり』を深める・強めることができたことだと感じている。1学校、1企業では出来ないことを委託事業を通して団体組織として態勢を充実させていく・・・それがまさしく『つながり』を深める・強めるきっかけだと言える。大専各留学生委員会は、ワーキングという有志校が集まって、様々な取組みを行う実働部門が中心となって活動している。その活動は大専各内だけでなく、広く社会に呼びかけ、大阪観光局や大阪商工会議所など各種団体とも連携を築き広がっている。留学生の入口から出口までの支援を行うという想いをひとつに、これからも「つながりの輪」を拡げていきたい。

第3章：総括

(2) 2020年度 委託事業実施体制



(3) 企業・団体

氏名		所属・職名	役割等	都道府県名
1	清水尚道	大阪府専修学校各種学校連合会 理事長	実施委員長	大阪府
2	興津厚志	大阪商工会議所人材開発部長	事業協力・助言	大阪府
3	牧野輝彦	大阪観光局マーケティング事業部 海外部門国際交流・留学生支援担当	事業協力・助言	大阪府
4	根本裕之	日本貿易振興機構大阪本部長	事業協力・助言	大阪府

(4) 行政機関

氏名		所属・職名	役割等	都道府県名
1	北川裕一	大阪府府民文化部都市魅力創造局 国際課総括補佐	事業協力・助言	大阪府

(5) 実施委員会構成員

	氏名	所属・役職
1	清水 尚道	大阪府専修学校各種学校連合会 理事長 森ノ宮医療学園専門学校 理事長
2	興津 厚志	大阪商工会議所人材開発部長 大阪企業家ミュージアム事務局長
3	牧野 輝彦	大阪観光局マーケティング事業部 海外部門国際交流・留学生支援担当
4	根本 裕之	日本貿易振興機構（ジェトロ）大阪本部長
5	北川 裕一	大阪府府民文化部都市魅力創造局国際課 総括補佐
6	山下 裕貴	大阪府専修学校各種学校連合会 留学生委員会 委員長 修成建設専門学校 理事長
7	上田 哲也	大阪府専修学校各種学校連合会 留学生委員会 副委員長 大阪総合デザイン専門学校 理事長
8	富永 桂多	大阪府専修学校各種学校連合会 留学生委員会 担当副理事長 関西外語専門学校 理事長
9	長谷川 恵一	エール学園 理事長
10	木村 泰一	ECC留学生国際外語専門学校 留学生センター長
11	村川 秀夫	大阪調理製菓専門学校 校長
12	吉岡 健一	大阪コミュニティワーカー専門学校 校長
13	鍛冶田 千文	大阪YMCA国際専門学校 校長
14	中森 健裕	日本メディカル福祉専門学校 副学園長

(6) ワーキングメンバー構成員

	氏名	所属・役職
1	山下 裕貴	大阪府専修学校各種学校連合会 留学生委員会 委員長 修成建設専門学校 理事長
2	上田 哲也	大阪府専修学校各種学校連合会 留学生委員会 副委員長 大阪総合デザイン専門学校 理事長
3	富永 桂多	大阪府専修学校各種学校連合会 留学生委員会 担当副理事長 関西外語専門学校 理事長
4	白石 一幸	ECC国際外語専門学校 留学生事業部日本語学科 国際コミュニケーション学科進路課
5	長谷川 恵一	エール学園 理事長
6	萩原 大作	エール学園 理事 校長
7	宗田 宜士	大阪工業技術専門学校 学園事務局
8	田中 隆弘	大阪調理製菓専門学校 法人本部校務事務局 和泉事務事務長
9	柴田 聖子	大阪バイオメディカル専門学校 理事
10	岡 猛	大阪文化国際学校 校長
11	鈴木 えみ	大阪YMCA国際専門学校 副校長
12	中山 羊奈	大阪YWCA専門学校 校長
13	岡田 智幸	近畿社会福祉専門学校 留学生担当責任者 医療法人健和会 奈良東病院 事務局長・本部事務部長
14	桒 豪司	近畿社会福祉専門学校 校長
15	平岡 憲人	清風情報工科学院 専務理事 校長
16	古畑 和彦	清風情報工科学院 留学生広報部長
17	瓶井 修	日本メディカル福祉専門学校 校長
18	瓶井 通	日本理工情報専門学校 教務部長
19	小島 賢久	森ノ宮医療学園専門学校 森ノ宮医療大学 教授 理事

(7) 事業実施協力機関

事業実施協力機関
大阪府
大阪商工会議所
日本貿易振興機構(ジェトロ)大阪本部
大阪観光局
日本語教育振興協会
一般財団法人職業教育・キャリア教育財団
株式会社アクセスネクステージ
株式会社WAVE

2020年度文部科学省委託事業「専修学校グローバル化対応推進支援事業」
各地域における外国人留学生の戦略的受入れに向けた体制整備
大阪型専修学校グローバル化対応推進事業2020
成果報告書

発行日 2021年2月 第1版

受 託 一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会

住 所 〒534-0026大阪市都島区網島町6番20号大阪私学教育文化会館内

TEL：06-6352-0048 FAX：06-6352-7553

大専各サイト <http://www.daisenkaku.or.jp/>

大専各留学生支援サイト [https://study-osaka.com /](https://study-osaka.com/)

大専各サイト

<http://www.daisenkaku.or.jp/>



大専各留学生支援サイト

[https://study-osaka.com /](https://study-osaka.com/)



大阪型専修学校グローバル化対応推進事業2020

成果報告動画

[https://study-osaka.com /](https://study-osaka.com/)



